



平成23年度 センターニュース



2012.4 No.25

室蘭工業大学

地域共同研究開発センター

— 目 次 —

新任のご挨拶と地域連携活動の今後に向けて	1
鴨田 秀一	
センター長 退任のご挨拶	4
加賀 壽	
特認准教授 新任のご挨拶	5
江上 毅	
1. 産学連携体制(平成23年度)	6
2. 事業推進検討会	8
3. 事業実績	17
4. 事業活動	24
5. 地域共同研究開発センター研究協力会	
役員名簿	40
平成23年度加入企業	41
6. 資料	
新聞記事	47

表紙写真

上左：第1回MOT(技術経営)実践講座(事業活動4)

上右：北洋ものづくりテクノフェア2011 (事業活動13)

下左：第24回大学・企業技術交流会／フロンティア技術検討会(事業活動22)

下右：高度技術研修(札幌会場)(事業活動24)

新任のご挨拶と地域連携活動の今後に向けて

地域共同研究開発センター
センター長(特任教授) 鴨田 秀一

ご挨拶

本年4月より、地域共同研究開発センター(以下、CRDセンター)のセンター長を拝命しました。CRDセンターの准教授として、この1年、CRDセンターの大きなミッションである本学と地域・産業とをつなぐリエゾン役の一人として、加賀前センター長の下、活動してきました。

CRDセンターは、本学教員が有する知識、知恵や研究成果を産業界・社会で活用することを促進し、地域の活性化に貢献することを目的としております。昨年は、このような機能を更に充実させ、産業界・社会のニーズに的確に対応すべく、新たに社会連携統括本部が設置され、社会連携に関連する各機能と本学の教育・研究機能とが有機的に連携できる体制となりました。CRDセンターはその中核となる組織で、これまで以上に、本学と地域・産業とをつなぐリエゾン機能の向上を図り、教員の成果が各分野で活用されるよう尽力する所存でおります。引き続き、ご支援、ご協力を宜しくお願いいたします。

地域連携活動と今後に向けて

(1) 地域ものづくり産業イノベーション研究会

平成19年から北海道ものづくり産業の活性化に向けて産学官金の支援機関の果たすべき役割について明らかにするため、道内9支援機関のメンバーから構成された研究会を設立し、研究活動を推進してきました。平成21年度からは北海道内ならびに道外(新潟県、岩手県)のものづくり企業を実態調査し、企業の特徴やどんな強みにより現在の地位を獲得したかや支援機関の果たした役割等について調査しました。これら調査結果については、共同研究報告書「地域ものづくり産業の集積・活性化に関する研究－企業調査に基づく支援機関の役割－」として発刊し、関係機関に配布するとともに札幌にて報告会、道外調査対象企業による基調講演、パネルディスカッション等も実施しました。道内の産業界、支援機関の多数の方に参加いただき、道内のものづくり産業の活性化に何が必要かについて産学官金と一緒に考えることができました。平成22年度からは、更なる発展が期待できる「ものづくり企業」をモデル企業として選定し、メンバー機関の総合力で支援することとしました。当該企業の実態調査、現状の取組み、今後の方向性などを聞き取り調査し、また、SWOT分析、ディスカッションなどを重ね、公募事業への採択に結び付けました。なお、本研究会は平成23年度をもって発展的解消となりましたが、本学は公募事業の再委託機関として技術開発・実証試験に取り組むこととなりました。

(2) 北海道医療産業研究会

北海道内での医療産業の創出を目指し、本学、札幌医大、小樽商大と道工試が幹事となり、北海道医療産業研究会を平成20年に設立しました。医療ニーズ情報収集における課題に関し、ニーズ収集活動を通じ明確にするとともに、会員企業が保有する技術シーズと医療ニーズとのマッチングを図ってきました。また、道外先進地域からの講師によるセミナーを開催するとともに、本研究会の活動に対する協力体制の構築を図ってきました。平成23年度は、会員企業の開発製品を医大にて評価・実証する取り組み、本学教員のシーズを会員企業が製品化するための取り組みなどが進められ、徐々にではあるが、

本研究会の成果が見えるようになってきています。次年度以降も引続き有益な医療ニーズ情報の収集と担い手となる会員企業のシーズとのマッチングを地道に支援するとともに、開発事例を早期に創出するよう努める所存です。

CRD センター活動の強化

(1) 産学官連携自立化に向けて

昨年度に引き続き、平成 23 年度も文部科学省大学等産学官連携自立化促進プログラム【コーディネーター支援型】に採択されました。本事業は、産学官連携に必要な大学の機能強化、産学官共同研究の推進、地域における産学官ネットワークの形成等を通じて、大学における研究成果還元を推進するとともに、地域が主体的に行う持続的なイノベーション創出のためのシステムを整備することを目的としております。本目的の達成に向けた本学の教育研究活動と社会貢献活動とが有機的に連動した持続的な連携や大学自前のコーディネーターを養成して活動できるような産学官連携体制の構築を進めております。

(2) 地域企業訪問によるニーズ調査

本センターの専任コーディネーター等が中心となり、コーディネーター単独又は地域支援機関のコーディネーターと連携した地域企業訪問は 200 回近くにも達しております。企業のニーズ調査や大学の研究シーズの広報と技術相談に応じてきました。また、相談案件については、学内の教員への仲介ばかりではなく、道工試等の学外機関との連携等を通じ、企業ニーズに極力応えるよう努めてきました。正に本学が掲げている「地域密着型産学官連携」を継続的に実践しております。

(3) 高度技術研修

実際に腐食防食に係わっている本学の教員と産業界の研究者から構成された講師陣により、「建築設備における腐食・防食技術講習会」を函館と札幌の 2 箇所で開催しました。腐食防食技術の基礎から実践的な応用技術までの広範かつ実用的な内容であり、両会場とも定員一杯の盛況ぶりでした。参加者の抱える技術課題等について活発な質疑応答があり、企業ニーズの高い技術分野であることを実感しています。今後も企業の受講者からのアンケート調査等を参考に企業の要望を入れた研修会を実施する予定です。

(4) 共同研究アンケートに関する調査、解析

共同研究、受託研究先の企業に対する評価アンケート調査を昨年度に引続き実施し、今年度で 5 年目を迎えました。共同研究先企業はリピーターが多く、共同研究、受託研究に占めるリピーター企業の割合は 60%にも達しています。しかし、共同研究件数がますます減少傾向にあることから、学内教員との連携のもと新規共同研究の開拓に努める必要性を痛感しております。

また、共同研究先企業からの大半は高評価の反面、一部改善を要する課題も浮き彫りになり、これら企業への訪問調査とフォローアップに努めてきました。今後も顧客である共同研究先企業等に満足していただけるような共同研究、受託研究が実施されるよう、当センターとしても、コーディネート機能の向上に向け尽力する所存です。

(5) プレ共同研究

学内教員と企業との共同研究の一層の推進を目的に、共同研究実施に向け予備試験段階の研究案件を対象に支援する事業です。具体的には、相手側企業との間で研究成果の目標を設定したプレ共同研究を実施し、その目標を達成した時点で本格的に共同研究を進めていただく、共同研究のお試しコースに位置付けられております。年度途中で共同研究に進んだ案件もあり、また、昨年度実施のプレ共同研究についても、本格的な共同研究に発展した案件も数件あります。プレ共同研究は本センター研究協力会の支援による本学独自の事業であり、学内外へのさらなる広報により、一層の有効活用を図る所存です。

(6) 展示会出展による成果の広報

学内教員の研究シーズや研究成果を学外に対して、広く広報し、それらを活用してもらうこと、また、学外にて産業ニーズ情報の把握や企業ニーズとのマッチングを図ることを目的に、道内、道外の各種の展示会に出展しました。センターが主幹となる出展と教員が自ら展示会に出展する二通りの事業を実施しました。後者の事業は、学内の教員の要望のもと始めたものです。学内教員の社会貢献支援と学外への広報の観点から極めて有益であり、本学のような地方大学にとりその意義は極めて大きく、今後も長期的な視点から学内への定着を図る所存です。

センター長 退任のご挨拶

地域共同研究開発センター
前センター長 加賀 壽

大学卒業後、民間企業での十数年間の勤務を経て、地域企業支援を使命とする北海道立工業技術センターでの20年間の勤務後、地域共同研究開発センターの専任教員として平成18年着任以来、地域貢献、社会貢献業務に心血を注いできました。文字通り産官学連携を自ら体験し、実践してきたこととなります。この度、定年を迎え、6年間の大学での教員生活に終止符を打つこととなりましたことをご報告申し上げます。

地域共同研究開発センター長として、地方の工学系単科大学の果たすべき役割とは、本学は何を特徴とすべきかを念頭に、地域、社会貢献のあるべき姿について自問自答しつつ実践してきました。平成18年には内閣府の「総合科学会議」において本学の中小企業との共同研究比率が全国一位との評価をいただき、さらに「日経グローバル」誌において、平成19年には地域貢献度ランキングが全国一位とその後本学の地域貢献が高い評価を受けてきました。学内の教職員、学生が一体となった地域貢献活動に対する成果であり、地域共同研究開発センターの社会貢献活動の向かうべき指標と大きな駆動力をもらいました。このような評価を踏まえ「地域に役立ってこそ地方大学の存在意義」と考え、前任の斉藤センター長の掲げた「地域密着型の産学官連携」をひたすら推進してきました。

地域共同研究開発センターは、平成5年度に設立、現在58社(機関)加入の「地域共同研究開発センター研究協力会」、道内十数支援機関が参加の産学連携支援を目的とした「産学官連携支援会議」や室蘭テクノセンターと地域金融機関が参加の「コーディネーター会議」など多くの応援団や連携に支えられた産学官活動を実施してきました。このような支援機関との連携活動は、本学の地域貢献に対する期待が表出したものと重く、かつ真摯に受け止め、教職員一丸となった産学官連携活動の推進に努めてきました。

社会貢献活動は平成16年度の法人化時、新たな使命として明確化されたこともあり、従来の大学の使命である教育・研究と別個に社会貢献が捉えられ、一部少数教員に偏在した活動になっていました。この課題を改善するため、平成23年10月社会連携統括本部が開設しました。各研究領域から5名の兼任教員を任用し、これら兼任教員を橋渡し役とした学内の教育・研究部門と一体となった産学官連携が推進できる体制が構築されました。今後は多くの学内教員を巻き込んだ、地域や社会が期待する産学官連携が推進できるものと確信しております。

地域共同研究開発センター長として地域、社会貢献業務の遂行に際し、心強いご支援とご協力を賜りました学内外の関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

特認准教授 新任のご挨拶

地域共同研究開発センター

特認准教授 江上 毅

本年4月1日付で北海道庁から2年間の予定で派遣され、地域共同研究開発センター特認准教授の任に就きました。これまで、北海道庁経済部産業振興局産業振興課において道内における新たな産業の創出や事業化を支援する北海道中小企業応援ファンド事業や「北海道経済構造の転換を図るための企業立地の促進及び中小企業の競争力の強化に関する条例(通称：北海道産業振興条例)施行規則」の改正および当条例に基づく補助事業に関する業務を通じ、ものづくり企業をはじめとした道内中小企業の支援に携わってきました。今までは条例や補助制度をより良いものにより、道内企業の活性化ひいては道内産業・経済の活性化を図ることはできないか、制度というマクロ的な視点で考えを巡らせてきましたが、実際に事業活動や産学連携が行われている‘現場’の熱からは少なからず距離があり、そのことについて一種の歯痒さを感じておりました。

室蘭工業大学はその目標に「室蘭工業大学は、学術研究の成果を地域・国際社会へ還元するとともに、産学連携を推進し、豊かな社会の発展に貢献します。」と掲げ、その成果は過去に内閣府「総合科学技術会議」における国立大学法人等の科学技術関係活動に関する調査で中小企業との共同研究・受託研究比率で全国一位、また、「日経グローバル」誌における地域貢献度ランキングで全国一位になるなど高い評価を得ていると認識しております。

そして、そのような素晴らしい成果を上げている大学、特に産学連携の中心である地域共同研究開発センターにおいて‘現場’の熱を感じながら仕事をできることに喜びを感じております。

産学連携にはいろいろな機能がありますが、中でもイノベーションを誘発する機能が重要です。経済の成長の源泉はイノベーションであり、それは多様なものの中から化学反応が起こり生まれます。大学に蓄えられた知を社会に還元していく中で、大学と企業という異なる主体が出会い、イノベーションが生まれ、それが波及していくことにより活性化していく。そのような好循環を生み出す端緒となる産学連携が少しでも円滑に進むよう微力ながらお手伝いさせていただくとともに、大学、連携企業さらには地域の活性化に貢献したいと思います。

まだ、この地域共同研究開発センターにおいてどのようなことができるのか、またどのようにお役に立てるのか不安の中しておりますが、今までの制度面からの業務経験等を活かし、少しでも発展に寄与できればと考えております。現場での具体的な経験が乏しい面はありますが、皆様のご指導を頂きながら日々の業務に努めていく所存です。どうぞよろしく願いいたします。

1. 産学連携体制(平成23年度)

【センター長】

加賀 壽 (もの創造系領域 教授)

【准教授】

嶋田 秀一 (もの創造系領域)

【技術補佐員】

黒島 利一

【事務補佐員】

齊藤 美幸

川崎 恵

【専任コーディネーター】

伊庭野 洋

【産学官連携コーディネーター・特任教授】

石坂 淳二

【シニアコーディネーター】

朝日 秀定 (学外協力員・特任准教授)

【兼任教員】

土屋 勉 暮らし環境系領域 教授

中野 博人 暮らし環境系領域 教授

青柳 学 もの創造系領域 教授

風間 俊治 もの創造系領域 教授

清水 一道 もの創造系領域 教授

【産学官連携支援室】

安澤 典夫 (財)室蘭テクノセンター 統括アドバイザー

上出 英彦 (財)室蘭テクノセンター ビジネスコーディネーター

村上 孝志 (財)室蘭テクノセンター ビジネスコーディネーター

【客員教授】

三上 浩 三井住友建設(株) 技術研究開発本部 技術開発センター 主席研究員

城 尚志 帝人(株) 融合技術研究所 所長

山田 豊 ショーク(株) 代表取締役社長

佐藤 完二 (独)科学技術振興機構 J S Tイノベーションプラザ

北海道科学技術コーディネーター

東川 敏文 経済産業省 北海道経済産業局 産業部長

山中 芳朗 (財)北海道科学技術総合振興センター クラスター統括部 新プロジェクト室長

永松 俊雄 崇城大学 教授

【客員准教授】

一木 智康 TOTO(株) 衛陶技術本部 衛陶材料技術グループリーダー

関川 純人 室蘭市 経済部 産業振興課 工業・企業誘致主幹

【事業推進検討会】

秋山 俊彦 苫小牧工業高等専門学校 校長
東 司 (株)日本製鋼所 研究開発本部 室蘭研究所 所長
石井 博美 室蘭工業大学 地域共同研究開発センター 研究協力会 会長
(新日本製鐵(株) 室蘭製鐵所 製品技術部長)
北山 茂一 産学交流プラザ「創造」 会長
(株)アールアンドイー 代表取締役)
工藤 恣 (株)室蘭民報社 専務取締役
佐藤 武雄 (財)室蘭テクノセンター 専務理事
蓑嶋 裕典 地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 産業技術研究本部 工場試験場 場長
山中 芳朗 (財)北海道科学技術総合振興センター クラスタ統括部 新プロジェクト室長
土屋 勉 暮らし環境系領域 教授
中野 博人 暮らし環境系領域 教授
青柳 学 もの創造系領域 教授
風間 俊治 もの創造系領域 教授
清水 一道 もの創造系領域 教授

2. 事業推進検討会

会の目的：本会は、室蘭工業大学の教員と民間企業等の方が意見交換し、また、提言等を受け、室蘭工業大学地域共同研究開発センター(CRD センター)の事業推進に資することを目的としている。

(室蘭工業大学地域共同研究開発センター事業推進検討会規約第2条)

開催日：平成24年3月22日(木) 13:30～15:00

場所：室蘭工業大学 事務局 中会議室

出席会員：(学外) 東 司, 石井 博美, 北山 茂一, 工藤 恣, 蓑嶋 裕典, 山中 芳朗

(学内) 土屋 勉, 中野 博人, 青柳 学, 風間 俊治, 清水 一道

関係教職員：佐藤 一彦, 野口 徹, 加賀 壽, 鴨田 秀一, 石坂 淳二, 伊庭野 洋, 鈴木 雍宏

川岸 斉, 伊藤 陽平, 伊藤 光春, 笹 裕幸, 黒島 利一

○検討会概要

佐藤一彦学長から開会にあたって挨拶があり、その後、会長に山中芳朗氏、副会長に風間俊治氏を選出した。出席会員の自己紹介、大学関係者の紹介の後、加賀センター長から、事業推進検討会の趣旨説明があり、引き続き、平成23年度のセンター事業計画及び進捗状況の説明があった。これらの説明に対して、質疑応答と意見・提言がなされた。加賀センター長及び野口理事(社会連携統括本部長)から、社会連携統括本部の設立に伴う本検討会の発展的解消の提案があり、了承された。最後に加賀センター長の退職挨拶、野口理事の辞職挨拶があり閉会となった。

○佐藤学長挨拶の骨子

今回の事業推進検討会の開催にあたり、検討会の委員引き受け、本検討会への出席、更には本学への社会貢献等の協力に対して謝意を表す。

最近の本学の様子について、幾つか紹介させてもらう。

第2期中期計画の中間年度(第3年度)に向けての本学の目標等を説明する。教育では、平成25年度に向けて大学院博士前期課程及び博士後期課程の改組再編を進めている。研究では、本学の研究の顔になるような重点的な研究分野をいくつか立てている。第1期中期目標期間以来の航空宇宙機システム関係と環境科学・防災研究関係については重点研究ということで続けているが、平成22年度から新たに第3番目の柱として重点的な研究分野を3つ程並行で推進している。この中から平成22年度と平成23年度の研究実績を評価して、平成24年度以降は一つに絞って重点的に進めていく。プロジェクトの略称は希土類、地域医療、新素材関係の3つで、3月中には最終的な評価を行い、4月から一つを選定して重点的に支援していく。また、若手研究者を支援するとともに本学の基盤的研究となるグループ研究の推進や特色ある研究プロジェクトを学内に公募して実施する。社会貢献では、今年度、学内に産学官連携、知的財産及び教育社会連携の3部門を統括する「社会連携統括本部」を設置し、教育研究を担う教員が主体的に関与、参画して社会連携を推進するための新体制を構築した。これにより、今後はCRDセンター単独ではなく、社会連携統括本部全体として学内外の評価を受け、意見を伺いながら大学の推進すべき事業を実施していきたい。

本日の検討会では、いろいろな角度からCRDセンターの活動について忌憚のない意見、提言を伺い、社会連携統括本部を中心とした本学における社会貢献事業の参考とさせていただきたい。

○センター長挨拶骨子

本検討会への出席に対して、また、日ごろのCRDセンターの活動に対しての協力、支援に感謝する。本検討会の開催が3月末にずれ込んだのは、組織を変えて社会連携統括本部の活動として捉える機構改革が10月に実施されたためである。

本検討会は、CRDセンターの外部評価として位置づけられ、会員の皆さんからの意見、提言を次年度の活動、あるいは、年度途中でも活動の中に反映させてきた。

CRDセンターは、国内の大学の中でも初期に設置された。最初にCRDセンターが国立大学に設置されたのは昭和62年の3校であり、本学は2年目の昭和63年に4校中の1つとして設立された。民間企業との共同研究を通じて地域の産業活性化を担うため、室蘭が鉄冷えて非常に苦しかったころに、何と

か地域に貢献できるようにという思いから開設されたものである。しかし昨今、学内外の諸事情によって、設立当初の趣旨とは若干異なった活動もせざるを得ない状況になっている。そういったことも含め、CRD センターは地域貢献、社会貢献を意識したいろいろな取り組みをしている。それに対して皆さんから意見や提言をもらえれば、出席していただいた意味づけができると考えている。

○議長挨拶

紹介の中では北海道科学技術総合振興センター所属となっているが、現在は、ほとんど北海道経済連合会に行き、フード特区に関する新しい組織を作る準備と国への対応に追われている。室蘭は残念ながら特区の中に入っていないが、一緒に研究や業務をすることには何も問題はないし、是非一緒にやってもらえればと思う。

特区ということでは、室工大への協力も必要と考えているが全然できていない。そこで、今日は、室工大やCRD センターのために前向きな議論をしてもらいたい。

○事業推進検討会の趣旨(加賀)

あらためて、本検討会の目的を説明する。規約第2条に規定しているが、民間企業の皆さん、教員の皆さんと意見交換をさせてもらい、更に提言などをいただき、その中からCRD センターの事業推進に反映、活用させていくのが目的である。

従来は学内会員として、先生は二人ほどだったが、今回は学内の兼任教員に初めて出席してもらっている。CRD センターの産学連携部門の活動を一緒にやってもらえるということでの出席である。したがって、学外会員の皆さんからの意見、提案を今日出席している兼任教員の先生方と共有し、次年度以降の活動への適用、その方法を検討できるということを今回の検討会の趣旨とさせてもらう。したがって、忌憚のない意見をいただき、CRD センターが地域、社会に役立つための事業展開に持っていきたい。

○協議事項の提示(議長)

本日の協議事項は2件ある。1件目は平成23年度のCRD センターの事業そのものについて、2件目は新しい産学連携体制について協議したい。

平成23年度CRD センター事業については、厳しい意見をもらいたい。ただし、もう一つ建設的な提言もつけてほしい。

○平成23年度のセンター活動報告の骨子(加賀)

平成23年度の事業内容を説明する。

平成23年度のCRD センターの重点活動は、学内産学連携体制の基盤整備、地域企業ニーズの把握と学内との連携強化、先生方の研究シーズ、ニーズ把握と活用、共同研究プロジェクトの発掘・推進である。

主となる顧客は、現在58社の企業に入ってもらっている研究協力会と共同研究を実施している企業である。これらの顧客に対してサービスの充実や更なる信頼関係を作っていきたいし、大型プロジェクトにチャレンジしていきたい。

更に教員との情報の共有化とコミュニケーション、また、センター員においては、自主判断に基づいて業務の効率推進を図っていききたいというのが、今年度のスローガンである。

CRD センターの活動目標として、大型プロジェクトやCRD センターが関与する共同研究の件数を数値で表している。大型プロジェクトの中ではサポインの2件が採択されている。目標としては、大型プロジェクトを3件取ろうと思っていたが、今年度はサポインしか獲得できなかった。共同研究は16件、1,800万円を目標としたが、22件、約4,300万円だった。学内全体では、70件、約9,000万円なので、金額的にはかなりの部分がセンターのコーディネートにより獲得できたものと判断している。また、CRD センターが関与した受託研究についても掲げているが、残念ながら目標14件に対し6件だったが、860万円ほどとなった。共同研究のフォローアップや企業訪問は2月28日現在約193件で、研究協力会の企業訪問等も実施している。最後に、学内産学官支援体制の基盤の構築ということで、機構の準備室を設置し、昨年10月に社会連携統括本部ができた。連携部門を兼任教員と一体となった体制にすることとなり、今回、兼任教員の皆さんにも出席いただいている。

CRD センターの関連行事としては、6月に中島の蓬らい殿で行っている研究協力会の役員会及び総会

が重要なものである。前述のとおり、58社の企業がセンターの産学官連携活動を支援してくれている。総会では、本学の空閑理事から本学における重点研究等の進め方、取り組みなどを講演してもらった。もう一つ大きな行事として、事業推進検討会議があり、これが本日の会議となっている。

資料では、共同研究、受託研究の推移を件数と金額で示しているが、共同研究の件数は下がってきている。平成23年度では、落ちた分をリカバーしようと思っていたが、極めて厳しいところに来ており、受託研究も件数、金額ともに平成21年をピークに落ちてきており、非常に悩んでいる。センターの実績の一つが、共同研究・受託研究などの獲得にどれだけ多く関与しているかなので、全体が低下傾向にあるのは危惧すべきことと考えている。なお、共同研究・受託研究の相手先を地域別で見ると、件数では、西胆振、道内は平成20年度約50パーセント、平成18年度60%ほどであった。しかし、現在は約44%で、道外が56%になっている。金額に至っては道外が85%で、道内は15%という状況にある。

共同研究もやりっぱなしではなくて、きちんとアンケート調査をして、相手先からどうしたら満足いただけるかの解析を学内の先生にお願いしている。この解析は平成19年から行っているが、満足度は、高い年度では70パーセントぐらいとなっている。こういう条件だったらこうだというIf-Thenという形を使って、顧客満足には、学内の対応が如何にあるべきかを検討しながら進めている。それでも伸び悩んでいるのが苦しいところである。平成23年度からは、社会連携統括本部の兼任教員の協力も得られるので、裾野を更に広げていきたいと考えている。

もう一つ、JST(科学技術振興機構)の研究助成事業だが、申請件数は平成18~20年度までは多かったが、それ以降激減している。平成20年度までは個別に申請依頼をしていたが、平成21年度から自主性に任せた結果、申請件数、採択件数ともに減ってしまったので、何らかの対応を考えなければならぬ状況になっている。先般、兼任教員の先生方との会議でもこれを話題にして、どうしたら上手く展開していくか、裾野を広げられるかを議論させてもらった。

この他の事業としては、研究協力会からの奨学寄附金を使って共同研究につなげるためのプレ共同研究を行っている。これは、共同研究のためのお試しコースになり、平成23年度は5件を採択した。この中から、年度途中で共同研究につながったのは2件であり、他の3件も平成24年度からスタートできるようになっている。これは学内で公募して、CRDセンターでヒアリング・採択後に研究実施となるが、研究終了後には成果報告会を実施している。スタートとしてはやり易い共同研究であり、展望が期待されることから、他の大学からも、良いシステムだという評価をいただいている。研究協力会の支援あつての事業であり、研究協力会に入っていない企業が対象になる際は、趣旨を説明し、研究協力会に入会してもらっている。この効果もあり、研究協力会の会員数は減らずに維持している。

大学院の学生には、技術だけではなく経営、マーケティングなども知っておく必要があるということで、平成18年度からMOT講座を開いている。基礎論と技術モデル作成論を担当しているが、この中で、経営者の方を招聘し、経済や経営の話しを学生とともに、地域企業の皆さんにも一緒に聞いてもらっている。これまで講師として18人ほど招聘し、地元からは、毎回10~15名の方に聴講してもらい喜ばれている。

また、CRDセミナーとして、本学教員の研究シーズを各地にて紹介している。今年度は、札幌、小樽、苫小牧、室蘭(本学)で行っている。

産学交流会・フロンティア技術検討会は、これまで23回開催しているが、平成23年度はテクノセンターと一緒に「企業のリスク管理の考え方と実践」というテーマで実施した。

もう一つ紹介したいのは、積雪寒冷地域における社会基盤の長寿命化ということで、本学の一番強いところである土木構造の講演会を寒地土木研究所との協定締結1周年ということでやらせてもらった。これには200人の定員に対し230人も集まり、非常に盛会であった。

他に企業との技術交流会や北海道立総合研究機構、教員との技術交流会を開催して共同研究につながったものもある。

大学間の連携事業として、北海道に医療産業を振興しようという主旨で結成した「北海道医療産業研究会」にも参画している。札幌医科大学、本学、小樽商科大学と北海道立総合研究機構が幹事となり、道内の製造業など数社がメンバーとなっている。

また、法政大学、信州大学のサテライトと本学CRDセンターをつないで「次世代人材育成プログラム経営革新塾」を実施している。計13回のシリーズだが、企業、行政、個人など毎回29名ほどが参加している。今年で2年目になる。室蘭テクノセンターや中小企業家同友会と協力しながら、室蘭の地で経営の勉強ができるようにという主旨で実施しているが、文系の大学(法政大学)には面白い先生方が

いて、たとえば『日本でいちばん大切にしたい会社』という本を執筆している坂本光司先生など著名な先生の講義もあり、皆さん熱心に前向きに参加している。

高度技術研修として、平成 23 年度も腐食を中心にした研修会を函館と札幌で開催した。産学連携の中の講師陣で行っており、定員一杯の受講者となるほどの好評を得ている研修会である。腐食防食のテーマが5年続いたので、来年度からはテーマ等を変えて実施したいと考えている。

本日、北山会長に出席してもらっているが、異業種交流では、「創造」という会があり、月1回会員企業の紹介や工場を見学し、意見交換し、その後、情報交換、交流会を行っている。センター員数名もメンバーであり、その中で産学連携が進められるように考えている。

地域研究会活動としては、道内計装エンジニアリング研修会は本学の花島教員が主査になり、ニッテツ北海道制御システムと一緒に年2回の研修を実施している。道内の関係者が多数参集する研修会となっている。北海道CAE利用技術研究会は、藤木教員が中心になり、北海道立総合研究機構とCRDセンターが事務局になっている会で、北海道立総合研究機構が道内地域に特徴ある研究会を作るという中で、本学も参画しているものである。北のものづくり総合技術交流会とは、若手の技術者養成を目的とした会で、CRDセンターが事務局になり、本学板倉教員と室蘭地域企業とが連携してものづくりを進めるために活動している。現在、NHK室蘭放送局前のモニュメントを「創造」と一緒に手直しする取り組みを行っている。

定期的な連携支援会議として、CRDセンター、室蘭テクノセンターと地元の金融機関が入ったコーディネーター会議を月1回実施している。

産学官連携支援会議として、本日、出席の山中会長に事務局を担ってもらい、本学の研究シーズのブラッシュアップ等、また、いろいろな申請に対しても協力いただいている。ここからプロジェクトに進んだものもある。他には5者懇とあって道や市、室蘭テクノセンター、商工会議所、本学が参画した会議を年に2~3回行っている。地域ものづくり研究会は私が代表を務め、本学が地域のものづくり企業に対し、どういう支援ができるかというのをやってきた。今までは調査と提言だったのだが、今年度は具体的に企業を支援しようということで、サポインに申請し、採択された。

技術相談、専任コーディネーターによる企業訪問の件数を示している。かなりの件数である。

展示会については、道外、道内にて出展している。刊行物としては、本日配布の『センターニュース』を年1回、新たに教員60人のシーズを掲載した「研究シーズ集」のリニューアル版、更には『研究報告』を制作・発刊している。

○議長

Q：外部資金の獲得状況が最初にあった。これはCRDセンターが関わった外部資金という理解で良いか。他にも外部資金というのは個々の先生方が獲得していると考えて良いか。

○センター長

A：CRDセンターが学内の先生にコーディネートして共同研究につないだり、センターのシステムで共同研究プロジェクトを実施してから、共同研究につながったものなどCRDが若干関わった案件も含めているが、かなりの部分はCRDセンターがコーディネートしたものといえる。

全体の共同研究、受託研究の中で、先生方が自ら獲得している件数は維持して、CRDが関与したものの比率を増やそう、新規開拓をしようと思っていたが、先生方の件数よりも、後者の部分が落ち込んでしまい、トータルでは結構厳しい件数となっている。理由はいろいろ考えられる。世の中の景気低迷の話もあるかと思う。全体に大学の共同研究等は落ちていく傾向にあるようだ。

○議長

Q：フード特区をやらざるを得ないのでいろいろな競争的シーンを調査、探索している。そうするといいものが結構ある。JSTでは、企業側が領域を作って提案するようなことを薦めている。例えば、鉄に関する課題を作って、それを基にチームを編成して実施するタイプなどいろいろあると思う。少し残念だが、室工大の研究の額を見ると、そういった外部資金ではなく、小さな競争的資金が多いようだ。したがって、大きなものを組んで取りに行くようなことをしてはどうか。

○センター長

A：以前から山中会長からはそういった話をもらっていて、何度かチャレンジしているのだが、そこ

まで至っていないというのが現状である。そういう対応ができればとは思っている。

○議長

Q：昨年度から文科省の研究・アドミニストレーターという制度ができている。研究・アドミニストレーターとは、プロジェクトマネージャーのことではなく、そういった競争的資金を取りに行く人と定義されていた。後ほど議論になると思うが、新しくできた統括本部として、研究・アドミニストレーターを組み込むために、応募して取りに行ってみようか。

○センター長

A：検討するよう申し送りしておく。

○学会会員

Q：昨年も聞いていて少しずつは前進していると思うが、資料の中に、大学間連携事業として医療関係の連携とか、医工連携での病院との連携がある。一昨年、昨年、今年、これからということで進展具合を教えてください。また、こういう課題があるというのを説明してほしい。

○センター長

A：昨年までは札幌医科大学と一緒に医の現場でのニーズを一生懸命探してきたが、それだけではなく、介護などの部分も含めて広く捉えていくという方向に変わってきた。そうすると、いろいろなところにニーズ、シーズがあり、本学にも医師が何人かいてシーズなどを持っていることが分かった。今日も午前中、医師の先生と企業とで商品化についての打ち合わせを行ってきたところである。

医療産業研究会では、製品化に向けた取り組みがトータルで5本動いていて、具体的に試作段階まで進んでいるものもある。また、本学石坂産学官連携コーディネーターも製鉄記念病院と具体的に動いているので、少しずつではあるが、形が見えてきている。ただし、ダイレクトに医療というと厳しいので、ワンステージ違うところでやっていく動きになっている。もう少しすると具体的な商品なども成果として出てくるかと思っている。時間がかかる分野だが着実に進んでいる。

○学会会員

Q：具体的にどんなところを期待している、というものはないが、例えばこの地域は新日鐵、日鋼が地域経済をリードしているので、消費財とか日常生活に関わるものを生産する考えがない。したがって、そういうものができてくると、この地域全体のモノの見方や関わり方が変わると信じている。その力を室工大が医工連携で引っばってくれればと思う。しかもこの地域は病院などの社会システムが充実しているという意味で恵まれているので、その質を高めるためにもかなり必要だと思っている。

○センター長

A：地域医療プロジェクトでは、感性やICTなどで地域の病院と連携しながら研究開発を進めるなど、もう一つの部分でも動いているので、今提言されたようなことが少しずつ実現に向かっていていると思っている。既に新日鉄病院と連携した在宅ヘルスケアのシステムは試行段階にきている。

○センター教員

A：室蘭地域は特別高齢化が進んでいることもあり、それに対する介護、養護みたいなものをしていかなければいけない。医療分野のニーズは医の方から出てきて、それをどう工学のシーズが支援できるかという位置づけだと思う。問題はニーズがどうやって出てくるか。なかなか医療からは出てこないのだが、幸いなことに室蘭には大きな病院が幾つかあって、そこから積極的にニーズが出てきたので、それに工学面的な視点で対応しているという状況である。これはまだポイント、ポイントでやっているのでもう少し幅広いとかグローバルな見方でやっていかなくてはならないと思っている。先ほど話が出たが、大学の中でも広域的な研究開発が進んでいるので、それをどう結びつけていくかはこれからの課題だと思っている。

○議長

Q：先ほど共同研究の件数が落ちてきて、西胆振の割合も少なくなっているとの説明があった。一方で、道外が半分以上あるようだが、道外との連携はどうやって声がかかったりするの。逆にどうして西胆振から声あまり出てこないのか。どうしてそういう割合になったのか。

○センター長

Q：西胆振の割合も少なくなっているもう一つの理由は、室蘭テクノセンターでの開発補助金に本学が関わると40万円ほど上乘せされるが、これに関わる件数が減っていることも考えられる。ただし、自然発生的に減っている部分もある。

道外はどうかというと、道外の人達は敏感に反応してくるし、CRDセンターを知っている人やJSTのコーディネーターでセンターの客員教授をやっている方が間を取り持ってくれているのが効を奏している。

もっと厳しいところにあるのは、地域に対応できるような研究シーズを持っている学内の教員が現実的に減ってきていることである。新任の教員が、道内の基盤に関わることが少なくなっている。対応できる教員も少なくなっているし、研究費を出す側の道内企業の経済状況も厳しくなっている。大学にニーズを持つてくるというのは、道内の中小企業だと特に出口までに時間がかかるので、その問題もあると思う。その点、道外の企業の方が力があるという感じがする。つい先日も一度共同研究実績のある企業から、突然、こういったことをやってほしいと飛び込んできている。センターが持っているネットワークを経由して道外の企業からくるものも結構ある。もちろん道内もある。

○議長

いろいろな条件が絡み合って、結果としてこういう数字になったことが分かった。

Q：新日鐵や日鋼は優秀な人材で大学出がかなり多いと思うのだが、中小企業は研究するのも現場を持ちながらせざるを得ないので、なかなか手が出ないというのが現状で、お金があっても多分できない。お金があれば研究ができるわけではなくて、人がいないとできないので、先生と密にコンタクトが取れる道内の中小企業はすごく少ないということだ。何故、道外かかというと、道外はそのマスがかなり多いので、中小企業でも従業員が200人、300人いる所は研究開発部門を持っているので、研究しやすい。利益の何パーセントかを研究開発にしようとなれば、その人材がいないのは北海道。やはり人材育成を含めて室工大は輩出する学生を中小企業に入れて、研究できる人たちを育てていくのも大事である。人材が確保できていないというのが道内では一番大きい。お金があって研究ができるのであれば、既に共同研究ができていると思う。

○センター長

A：あとはマッチングの確率もある。道内の産業の大きさと本州とは違うので、本州は母数が大きいのでそれだけ本学のシーズがほしいというところが出てくる。道内だと地域の何とかというように1対1の話になるのでうまく対応できないところもある。

○学内会員

A：事実、日鋼や新日鐵は私たちと同じぐらいの同期がたくさんいて、研究開発も同じような条件でやっているの、大学より進んでいるものは自社でできる。商売につながることだから。うちの大学の大きなポイントは、中小企業との共同研究の件数を持っているということ、中小企業を応援して、他の大学より地域に根ざしていることだと思う。こういうところに採ってもらえるような人材を道内で育てないといけない。

○センター長

A：それなりに企業力がなくて学卒の人間を採れないというのがあり、その両方かと考えている。

○議長

新しい産学官連携体制について説明を受け、そこでまたご提言をいただきたい。

平成23年10月に室蘭工業大学社会連携統括本部ができた。この概要や方針について説明をもらい、

皆さんからの提言をいただきたい。

○センター長

皆さんに配布のパンフレット「社会連携統括本部」をパワーポイントにした。社会連携統括本部という組織があり、学長、役員の下に本日出席の野口理事が統括本部長の任に当たっている。組織の中に、市民講座や公開講座、小中学生に理化学の教育をする教育、社会連携部門。私どもCRDセンターは産学連携部門に所属している。知的財産部門と合わせて、一体になって活動しようという趣旨で社会連携統括本部を立ち上げた。一番のポイントは教育・研究組織と連携して活動をしようというものだ。統括本部全体については、後ほど野口理事に補足してもらうが、社会連携統括本部設置の趣旨は、大学の社会貢献活動を教育活動と一体となることで社会のニーズに対応すること。研究活動による学生の教育、研究成果と人材育成による社会への貢献ということで、教育、研究、社会貢献がグルッと回る仕組みにしようというのが大きなポイントになっている。

教育、研究に社会貢献もやらなければならないと捉えたと、学内教員の母数を社会貢献に引き込むことはできないし、先ほどの共同研究、受託研究につながりこともできないのだが、こういったところから研究課題を取って、これをベースに落とし込んでいくとか、基盤技術にして研究を進める形にするとグルッと回るし、お金も潤沢にできることを、まずは学内に理解してもらうというのが大きなポイントになっている。

進めるにあたっては、佐藤学長からCRDセンター単独ではないという話があったが、野口理事を筆頭に各研究の領域長が統括本部のスタッフとして入っているし、その他に産学連携部門では、本日出席の兼任教員の5人の先生方が入っている。先生方はこれまでも社会貢献、地域貢献の意識が高く、実践している方々で、センターとしてはすごい味方を得たと思っている。朝日先生はシニアコーディネーターとして支援してもらっている。このように、学内で教育・研究部門とつながられるような展開をしていく体制ができ、活動がこれからできる状況になった。

我々は外の皆さんとつながることは苦にならないし、卒業生を含めて本学にはたくさんの応援団がいる。一番苦しいのは学内との連携をどうやったら良いかだった。我々が営業してきても学内の先生にやらないと言われるとアウトということも度々あった。今度は、学内と一体になって産学連携、社会貢献活動ができるというのが大きなポイントになり、産学連携部門が変わったということをCRDセンター長として皆さんに報告したい。統括本部全体については上手く説明できないので、野口理事から補足をお願いします。

○野口理事

先ほどの共同研究の件数、金額の推移を見ると、構造変化が起こっていると捉えないといけない。今の体制で努力してもカバーできるようにはなっていない。どこで構造変化が起こっているかということ、おそらく3年か4年前に限界を超えたとは私は見ている。

どう超えたか。かつてのCRDセンターは大学が設けて、専門の人材を呼んできた。あるいは大学内の堪能な教員が張り付いて、そして、地元の企業の皆さんに対して理解と支援を求めればそれで進んでいった。CRDセンターが努力して地元の企業の方々と意思疎通をして、いろいろな研究協力をとってきて、学内に向かって「お願いします」と言えば、それなりに対応してくれたわけである。ボトルネックはどこにあったかということ、大学と外との理解の堤防、そこが律速段階になっていた。そういう機会を設けて意見さえ聞けば何とか進めたのだ。それが今ではどうなっているか。律速段階はどっちにあるかということ、こちら側に非常に高いポテンシャルがあっても、大学の中に流れていかないのだ。そうするとCRDセンターがやらなければならない主な仕事は何かということ、外からはたくさんいろいろな要求が出てくる、それを学内に伝えてアクティベートすることになってしまう。そこが逆になっているので、この会の性格も変えざるを得ない。これはあとから議題になってくるかと思う。そのためにCRDセンターを大学の組織として根付かせて、教員とのつながりをよくすることが必要になってくる。そうすると「教育やって、研究やって、社会貢献までまたかよ。俺はそんな力ないよ」となっちゃうのだ。そうではなくて外の社会的な要請に応えること自体が研究につながるし、その研究をやることで学生を教育するんだという考えになれば、一体のものとして回るという先ほどの加賀先生の話になってくる。そういう組織にしなければならない状況がある。それは大きな構造変化なのだと捉えていただくとよろしいかと思う。

○センター長

もう一つ言うと、本学のような地方の大学は、大手の大学ではないので、それを更に強めていかなないと存在が危ぶまれるというのが、現場にいる人間が感じていることだ。

○野口理事

統括本部の一番の目玉は、出席の5人の先生方に加わってもらったこと。我々の側も外につながるエース級の人でつながっていけば良いと思う。そしてこの5人の先生方のバックには支持してくれる先生方がたくさんいる。そうするとここからきたポテンシャルがこちらに流れ出すだろうと。あとはこのバリアさえ薄くしてやればどんどん流れて、交流が起こる。そんな構想を持っている。

○議長

今日、5人の先生になった理由がよく分かった。

良い問題提起をCRDセンター側からもらったが、提言、アドバイスをもらいたい。

○センター長

補足させてもらうが、推進検討会議というのはCRDセンターのためだったのだが、今度は統括本部として外部の方の意見を伺うことになる。したがって、CRDセンター推進検討会議は、これをもって発展的に解消させていただく。ただし、皆さんからの意見は、しっかり受けとめて、次の統括本部の中で産学連携部門の活動の中に展開させてもらう。

○議長

Q：提言というか意見というか。先ほどの平成23年度の事業と今後を見させてもらったが、特徴は草の根運動と考える。イベントの数が非常に多い。こういうやり方も悪くないし、地域の大学らしいと思うのだが、前々から言っているように、拠点を作るとか、仮に八幡製鐵所を作るような気持ちで、ドンとやるような、そして求心力をもつようなやり口をもう少し検討してはどうか。今度、社会連携統合本部がやるので、それが良いのではないかということだ。具体的に言うと、室蘭のみんなで特区を申し込んだら良いのではないか。メタル&リサイクル特区とか。市役所が主体にならなければならないが、統括本部とやっっていけば良いと思う。

今回7つの国際特区が採択になった。私の推測だが、最下位は多分北海道で、1番は多分北九州だ。北九州特区は、ご存じのように50年前、30年前は室蘭と同じ状態だったのだが、今はグリーンイノベーションだ。ハイブリッドカーのリチウム電池のリサイクルや太陽光パネルのリサイクル、それからセンサー類なども回収しているのだ。水道事業とかにパッケージにして売っていくのだ。それを考えたら清水教授がやっている船のリサイクルだって負けてはいない。ぐっと求心力を持つようなやり方を、そろそろ考えていかれてはどうかと思う。北九州と福岡はその訓練を20年以上続けているのだ。だからパッと出して、1位か2位か知らないが上位のほうで採択になる。特区だからいいわけじゃないが、やはり上からのお金が優先的にくるのが得である。

○学外会員

私も市民懇談会やこの会で、先生方が地域に対してどうさばいてくれるかということ、ずっとCRDセンターも含めて期待してきた。常々、大学から地域に何を望むのか。大学側から見て、地域はもっとうこういうふうなことをしてもいいのではないかと。個別の実践例と組織として、清水先生のは素晴らしい組織だったと思う。皆が集まって、皆が応援部隊なのだ。だから、工大でやっている防災とか環境のことも、自治体からハザードマップを受けるだけでなく、それを地域の中にしていくために組織を作っていくとかを考えていく必要がある。先ほどの医工連携も製鉄記念病院などとの取り組みを積み重ねていって、さらに地域の介護や見守りのネットワークという形で社会システムを構築していくには、大学側から地域に対して求めるという部分を少し強く出していく方が良いと思っている。

○学内会員

先ほど議長が言ったように、北九州と室蘭はすごく似ていて、新日鐵やPCB処理施設も両方ある。北九州の港湾ヒアリングに行くと、シップリサイクルは完璧に負けているけど、他のものはほとんど

勝っていると言われる。注射針の処理とか、全て北九州に集めてやっているから、あれは議長が言うとおりの20年ぐらいやっていて、リサイクル事業に全国から見学に来るくらい特区に転じている。こういう先例があるし、日本製鋼所とか、新日鐵が室蘭にあるのだから、違った意味で活性化できるチャンスもあるので、言われる通り、メタル&リサイクル特区はいけるのではないかと思う。もう一つ言えるのは、エネルギー特区にするべきだと思う。

○議長

大きな構想を作るのは、本来大学の先生方は得意なのではないかと思う。

○学会員

それにはやはり企業の方がいないと難しい。地域には企業の方と雇用を生むような、成功する企画書と言うか、当然事業計画を立てた時にアームとして銀行がいくら投資するかというのがあるので、産学官民でやらないと難しいのではないか。特にその中心が今までCRDセンターに丸投げしていたので、それが組織化されるのはありがたいことだと思う。

○センター長

今、学内にはもう少し違うステージもある。今まで研究シーズの部分はワンマンラボで教員が一人でやっていたが、それを集めて線香から蠟燭のような太さに持っていけないと大変だろうという部分もある。そこから次のステージが、今言われた話だと思う。学内の研究シーズも増やさないといけない時期でもあるので、そういったものとのバランスだろうと思って見ている。

先ほどのフード特区だが、本学にも食品、バイオ関係の教員がいるので、そういった所を売り込みながら太らせておくことが今必要かと思う。

○議長

意見が幾つか出たところで、その他の協議事項に移らせてもらう。全く別の話題でも結構だが、事務局の方で何か用意しているか。

○センター長

用意していないので、時間があればフリーディスカッションでも構わない。

先ほど説明したが、新しく統括本部となり、CRDセンターの推進検討会は今回の開催をもって閉会させてもらい、次のステージは統括本部の中でこの種の会議を作るということに賛同をもらえればと思う（会員から賛同を得る）。

○議長

外部評価会議はやはり先生方と企業の方と半々ぐらいでやっていくのか。

○センター長

それはまた次のステージで検討していきたい。

○議長

それでは本日の予定にあるとおり、ここで協議は終了させてもらう。

本日の議事録は私と事務局サイドに一任させてもらいたい。

以後、加賀センター長の退職挨拶、野口理事の辞職挨拶があり、閉会。

3. 事業実績

共同研究プロジェクト(客員教授プロジェクト研究)

※研究代表者

NO	研究分野	大学側研究組織	民間機関等研究組織
1	社会基盤分野	くらし環境系領域 ※教授 岸 徳光 講師 小室 雅人 講師 栗橋 祐介	大企業
2	ナノテクノロジー・材料分野	もの創造系領域 ※講師 境 昌宏	大企業
3	情報通信分野	しくみ情報系領域 ※教授 福田 永 もの創造系領域 准教授 植杉 克弘	大企業
4	社会基盤分野	くらし環境系領域 ※講師 小室 雅人 教授 岸 徳光 講師 栗橋 祐介	中小企業
5	製造技術分野	もの創造系領域 ※教授 清水 一道 (ものづくり基盤センター長)	中小企業

民間等との共同研究

NO	区分	研究分野	大学側研究組織	民間機関等研究組織
1	継続	製造技術分野	もの創造系領域 教授 河合 秀樹	大企業
2	継続	製造技術分野	もの創造系領域 教授 風間 俊治	大企業
3	継続	製造技術分野	もの創造系領域 講師 長船 康裕	中小企業
4	継続	ナノテクノロジー・材料分野	もの創造系領域 教授 清水 一道	中小企業
5	継続	製造技術分野	もの創造系領域 教授 河合 秀樹	中小企業
6	継続	ナノテクノロジー・材料分野	くらし環境系領域 特任教授 田畑 昌祥	大企業
7	継続	ライフサイエンス分野	くらし環境系領域 准教授 太田 光浩	大企業
8	継続	製造技術分野	もの創造系領域 教授 風間 俊治	大企業
9	継続	ナノテクノロジー・材料分野	しくみ情報系領域 教授 福田 永	大企業
10	継続	ナノテクノロジー・材料分野	もの創造系領域 教授 桃野 正	大企業
11	継続	社会基盤分野	くらし環境系領域 教授 岸 徳光	中小企業
12	継続	ナノテクノロジー・材料分野	OASIS(環境・エネルギーシステム材料研究機構) 特任教授 香山 晃	大企業 中小企業
13	継続	情報通信分野	もの創造系領域 教授 佐藤 孝紀	中小企業
14	継続	ナノテクノロジー・材料分野	くらし環境系領域 准教授 田邊 博義	中小企業
15	継続	ナノテクノロジー・材料分野	もの創造系領域 教授 平井 伸治	大企業

16	継続	社会基盤分野	くらし環境系領域 教授 木村 克俊	国, 地方, その他公益法人等
17	継続	製造技術分野	くらし環境系領域 教授 溝口 光男	大企業
18	継続	環境分野	もの創造系領域 教授 媚山 政良	大企業
19	継続	製造技術分野	もの創造系領域 教授 齋藤 務	大企業
20	新規	ライフサイエンス分野	ひと文化系領域 准教授 上村 浩信	大企業
21	新規	情報通信分野	しくみ情報系領域 教授 福田 永	中小企業
22	新規	ナノテクノロジー・材料分野	もの創造系領域 特任教授 桑野 壽	大企業
23	新規	環境分野	しくみ情報系領域 教授 岩佐 達郎	国, 地方, その他公益法人等
24	新規	ライフサイエンス分野	くらし環境系領域 准教授 太田 光浩	大企業
25	新規	ナノテクノロジー・材料分野	もの創造系領域 教授 清水 一道	中小企業
26	新規	ナノテクノロジー・材料分野	もの創造系領域 講師 長船 康裕	中小企業
27	新規	ナノテクノロジー・材料分野	もの創造系領域 教授 清水 一道	中小企業
28	新規	ナノテクノロジー・材料分野	くらし環境系領域 教授 小幡 英二	中小企業
29	新規	環境分野	しくみ情報系領域 教授 板倉 賢一	大企業
30	新規	情報通信分野	もの創造系領域 教授 辻 寧英	大企業
31	新規	ナノテクノロジー・材料分野	もの創造系領域 教授 清水 一道	中小企業
32	新規	社会基盤分野	くらし環境系領域 教授 濱 幸雄	国, 地方, その他公益法人等 中小企業
33	新規	ナノテクノロジー・材料分野	OASIS(環境・エネルギーシステム材料研究機構) 特任教授 香山 晃	国, 地方, その他公益法人等 2機関
34	新規	社会基盤分野	くらし環境系領域 教授 鎌田 紀彦	大企業
35	新規	ナノテクノロジー・材料分野	くらし環境系領域 教授 濱 幸雄	中小企業
36	新規	社会基盤分野	くらし環境系領域 教授 濱 幸雄	中小企業
37	新規	製造技術分野	もの創造系領域 教授 桃野 正	国, 地方, その他公益法人等
38	新規	社会基盤分野	くらし環境系領域 教授 岸 徳光	大企業
39	新規	ナノテクノロジー・材料分野	もの創造系領域 准教授 岸本 弘立	国, 地方, その他公益法人等 8機関
40	新規	ナノテクノロジー・材料分野	もの創造系領域 准教授 岸本 弘立	国, 地方, その他公益法人等 2機関

41	新規	ライフサイエンス分野	もの創造系領域 教授 相津 佳永	大企業
42	新規	ナノテクノロジー・材料分野	OASIS(環境・エネルギーシステム材料研究機構) 特任教授 香山 晃	中小企業
43	新規	情報通信分野	もの創造系領域 准教授 植杉 克弘	大企業
44	新規	製造技術分野	もの創造系領域 教授 齋藤 務	大企業
45	新規	社会基盤分野	くらし環境系領域 教授 岸 徳光	中小企業
46	新規	ナノテクノロジー・材料分野	もの創造系領域 教授 清水 一道	中小企業
47	新規	ナノテクノロジー・材料分野	くらし環境系領域 特任教授 田畑 昌祥	国, 地方, その他公益法人等 中小企業
48	新規	社会基盤分野	くらし環境系領域 教授 岸 徳光	中小企業
49	新規	社会基盤分野	くらし環境系領域 教授 岸 徳光	中小企業
50	新規	ナノテクノロジー・材料分野	もの創造系領域 教授 平井 伸治	国, 地方, その他公益法人等
51	新規	社会基盤分野	くらし環境系領域 教授 岸 徳光	中小企業
52	新規	ナノテクノロジー・材料分野	もの創造系領域 教授 清水 一道	中小企業
53	新規	ナノテクノロジー・材料分野	もの創造系領域 教授 清水 一道	大企業
54	新規	製造技術分野	くらし環境系領域 教授 溝口 光男	大企業
55	新規	エネルギー分野	OASIS(環境・エネルギーシステム材料研究機構) 特任教授 香山 晃	中小企業 中小企業
56	新規	フロンティア分野	航空宇宙機システム研究センター 教授 東野 和幸	国, 地方, その他公益法人等
57	新規	製造技術分野	もの創造系領域 講師 境 昌宏	大企業
58	新規	情報通信分野	もの創造系領域 准教授 魚住 超	国, 地方, その他公益法人等
59	新規	情報通信分野	もの創造系領域 准教授 花島 直彦	国, 地方, その他公益法人等
60	新規	製造技術分野	もの創造系領域 講師 松本 大樹	大企業
61	新規	社会基盤分野	くらし環境系領域 教授 岸 徳光	中小企業
62	新規	環境分野	もの創造系領域 教授 埜上 洋	中小企業
63	新規	環境分野	もの創造系領域 教授 埜上 洋	中小企業
64	新規	ナノテクノロジー・材料分野	もの創造系領域 教授 清水 一道	大企業
65	新規	環境分野	くらし環境系領域 准教授 中津川 誠	中小企業

66	新規	ライフサイエンス分野	もの創造系領域 教授 相津 佳永	中小企業
67	新規	ナノテクノロジー・材料分野	もの創造系領域 講師 境 昌宏	大企業
68	新規	ナノテクノロジー・材料分野	くらし環境系領域 教授 濱 幸雄	大企業
69	新規	製造技術分野	航空宇宙機システム研究センター 教授 東野 和幸	大企業
70	新規	環境分野	もの創造系領域 教授 佐藤 孝紀	中小企業

民間機関等からの受託研究

NO	研究分野	大学側研究組織	民間機関等研究組織
1	製造技術分野	もの創造系領域 講師 松本 大樹	大企業
2	環境分野	もの創造系領域 教授 清水 一道	国, 地方, その他公益法人等
3	環境分野	もの創造系領域 教授 清水 一道	中小企業
4	その他	もの創造系領域 教授 高木 正平	国, 地方, その他公益法人等
5	環境分野	もの創造系領域 教授 清水 一道	国, 地方, その他公益法人
6	製造技術分野	もの創造系領域 講師 松本 大樹	大企業
7	ナノテクノロジー・材料分野	もの創造系領域 教授 清水 一道	国, 地方, その他公益法人等
8	ナノテクノロジー・材料分野	OASIS(環境・エネルギーシステム材料研究機構) 特任教授 香山 晃	中小企業
9	製造技術分野	もの創造系領域 教授 清水 一道	国, 地方, その他公益法人等
10	エネルギー分野	もの創造系領域 教授 清水 一道	中小企業
11	環境分野	もの創造系領域 教授 清水 一道	中小企業
12	ライフサイエンス分野	くらし環境系領域 教授 中野 博人	国, 地方, その他公益法人等
13	情報通信分野	しくみ情報系領域 助教 寺本 渉	国, 地方, その他公益法人等
14	ナノテクノロジー・材料分野	もの創造系領域 教授 世利 修美	国, 地方, その他公益法人等
15	製造技術分	もの創造系領域 准教授 戸倉 郁夫	国, 地方, その他公益法人等
16	環境分野	くらし環境系領域 准教授 中津川 誠	国, 地方, その他公益法人等
17	環境分野	もの創造系領域 教授 清水 一道	中小企業
18	ナノテクノロジー・材料分野	もの創造系領域 准教授 澤口 直哉	国, 地方, その他公益法人等

19	製造技術分野	もの創造系領域 講師 松本 大樹	大企業
20	製造技術分野	もの創造系領域 准教授 花島 直彦	中小企業
21	ナノテクノロジー・材料分野	しくみ情報系領域 助教 雨海 有佑	国, 地方, その他公益法人等
22	ナノテクノロジー・材料分野	もの創造系領域 教授 平井 伸治	国, 地方, その他公益法人等
23	ナノテクノロジー・材料分野	くらし環境系領域 特任教授 田畑 昌祥	大企業
24	環境分野	くらし環境系領域 准教授 吉田 英樹	国, 地方, その他公益法人等
25	環境分野	もの創造系領域 教授 清水 一道	中小企業
26	環境分野	もの創造系領域 教授 清水 一道	中小企業
27	製造技術分野	もの創造系領域 講師 松本 大樹	大企業

プレ共同研究

NO	研究分野	大学側研究組織	民間機関等研究組織
1	ライフサイエンス分野	もの創造系領域 教授 相津 佳永	中小企業
2	環境分野	もの創造系領域 教授 佐藤 孝紀	中小企業
3	製造技術分野	もの創造系領域 准教授 藤木 裕行	中小企業
4	ライフサイエンス分野	ひと文化系領域 准教授 三浦 淳	中小企業
5	ライフサイエンス分野	くらし環境系領域 准教授 上井 幸司	中小企業

※研究分野：1. ライフサイエンス分野 2. 情報通信分野 3. 環境分野 4. ナノテクノロジー・材料分野
5. エネルギー分野 6. 製造技術分野 7. 社会基盤分野 8. フロンティア分野 9. その他

※民間機関等研究組織：1. 国 2. 大企業 3. 中小企業 4. 地方公共団体 5. 公益法人等(公団, 特殊法人,
財団法人, 社団法人, 商工会議所及び独立行政法人を含む) 6. その他(国立大学法人を含む)

【展示会出展助成事業】

1. 出展研究シーズ名：超音波アクチュエータとその応用
申請教員：もの創造系領域 教授 青柳 学
展示会名：TECNO-FRONTIER 2011 第20回モーションエンジニアリング展
開催場所：東京ビッグサイト(有明・東京国際展示場) 東展示棟
開催期間：平成23年7月20日(水)～22日(金)
入場者数：33,705名(20日(水) 9,094名, 21日(木) 9,664名, 22日(金) 14,947名)
出展内容：1. 単相駆動・双方向回転円環形超音波モータの実演
2. ジャイロモーメントモータを応用した独楽の実演
3. 減衰伝送パイプによる粉体輸送の実演
4. 圧電振動部と機械駆動点を分離配置した超音波モータの実演
5. 細径パイプ伝送路を用いた超音波モータ実演の実演
および各ポスター展示

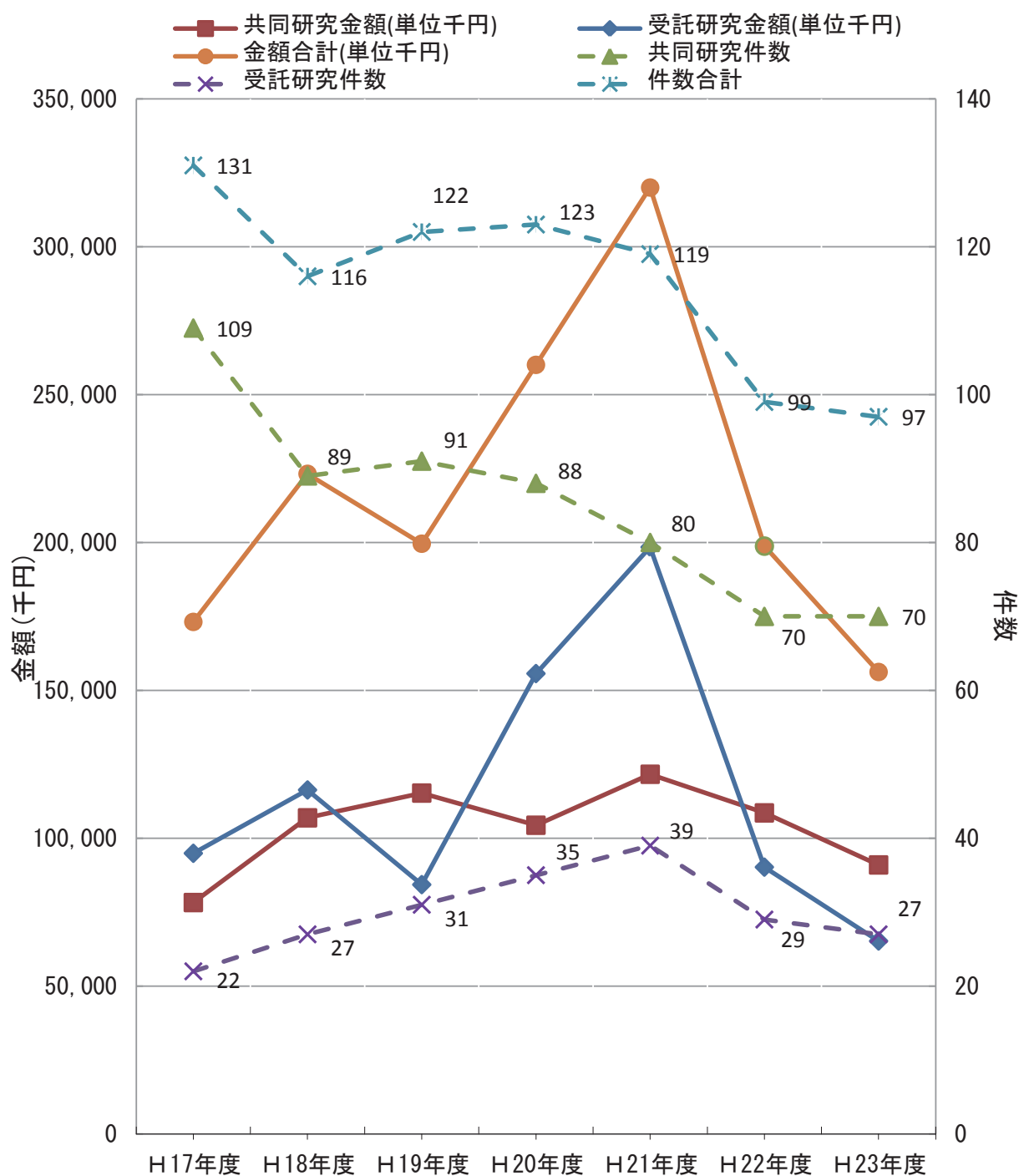
2. 出展研究シーズ名：エコランプロジェクト 自律四輪バギー車
申請教員：もの創造系領域 講師 廣田 光智
展示会名：札幌モーターショー2012
開催場所：札幌ドーム(札幌市)
開催期間：平成24年2月17日(金) ～ 19日(日)
入場者数：125,195名(17日(金) 26,511名, 18日(土) 49,463名, 19日(日) 49,221名)
出展内容：1. 教育成果としてのエコランプロジェクトの展示
2. 研究成果としての自律四輪バギー車の展示

【技術相談】

58件

「民間等との共同研究」及び「受託研究」の件数と研究経費の推移

	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
共同研究金額(単位千円)	78,243	106,890	115,267	104,386	121,628	108,559	90,961
受託研究金額(単位千円)	94,902	116,319	84,313	155,676	198,380	90,219	65,243
金額合計(単位千円)	173,145	223,209	199,580	260,062	320,008	198,778	156,204
共同研究件数	109	89	91	88	80	70	70
受託研究件数	22	27	31	35	39	29	27
件数合計	131	116	122	123	119	99	97



「民間等との共同研究」及び「受託研究」の件数と研究経費の推移

4. 事業活動

1. HiNT 連絡会

連絡会概要

- 1) 技術移転フォーラム2011「工業試験場」成果発表会のご案内について
- 2) 地域団体商標「めむろごぼう」「めむろメイクイーン」「大黒さんま」の3件が登録
- 3) 平成23年度民間企業の研究開発力強化及び実用化支援事業(新規産業創造技術開発費補助金)に係る公募について
- 4) HiNT連絡会のメーリングリスト拡大予定について
- 5) HiNTセミナーの講演テーマについて
- 6) その他
北海道大学 平成23年度産学連携本部組織について

主 催：HiNT連絡協議会

日 時：平成 23 年 4 月 26 日(火) 15 : 30 ~

場 所：R & B パーク札幌大通サテライト(札幌市)

出 席：産総研北海道，道総研工業試験場，NEDO，JST 北海道，政策金融公庫，道経済局
北海道大学，北見工業大学，道総研食加研

2. 研究協力会役員会及び総会

【議 題】

1. 研究協力会役員を選出について
2. 平成 22 年度活動報告及び決算について
3. 平成 23 年度事業計画(案)について
4. 平成 23 年度予算(案)について
5. その他

【特別講演】

演 題：「室蘭工業大学の研究がめざすところ」

理事(学術担当) 空閑 良壽

【情報交換会】

日 時：平成 23 年 6 月 9 日(木) 14 : 00 ~ 18 : 30

場 所：中嶋神社 蓬峯殿(室蘭市)

参加者：37 名



3. 第1回 CRD セミナー

テーマ：身の回りの放射線

しくみ情報系領域 講師 沖野 典夫

【情報交換会】

主 催：室蘭工業大学 同窓会 札幌支部

日 時：平成 23 年 6 月 10 日(金) 18 : 00 ~ 18 : 40

場 所：札幌グランドホテル(札幌市)
参加者：118名

4. 第1回 MOT(技術経営)実践講座

テーマ：経営者としての製品開発の取組

ショーワ(株) 代表取締役社長 山田 豊

主 催：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター
日 時：平成23年7月4日(月) 10:25 ~ 12:10
場 所：室蘭工業大学 N302
参加者：46名



5. 平成22年度ブレ共同研究成果報告会

テーマⅠ：温度画像を用いた移動ロボットのナビゲーションに関する研究

もの創造系領域 准教授 花島 直彦

テーマⅡ：粘膜疾患用超音波チップの開発

もの創造系領域 教授 青柳 学

主 催：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター
日 時：平成23年7月4日(月) 15:30 ~ 17:30
場 所：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター 産学交流室
参加者：13名



6. 大手企業による大学訪問

日 時：平成23年7月7日(木) 9:00 ~ 11:30
場 所：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター 他

7. 第2回 CRD セミナー

テーマ：東日本大震災からの復興と社会資本制度

くらし環境系領域 教授 田村 亨

主 催：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター
共 催：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター 研究協力会
室蘭工業大学 同窓会 水元技術士会
日 時：平成23年7月8日(金) 18:00 ~ 18:50
場 所：ホテルポールスター札幌(札幌市)
参加者：48名



8. 第2回 MOT(技術経営)実践講座

【講演】

テーマ：もの作りでオンリーワン技術を目指す

トーフレ(株) 代表取締役 中野 勝利

主 催：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター
 日 時：平成23年7月11日(月) 10:25 ~ 12:25
 場 所：室蘭工業大学 N302
 参加者：55名



9. 第2回北海道医療産業研究会定例会議
 【室蘭工大の医師等による研究シーズ紹介】

テーマ：「高照度光療法の効果と光療法器の開発」

ひと文化系領域 准教授 三浦 淳
 もの創造系領域 准教授 湯浅 友典

日 時：平成23年7月13日(水) 15:00 ~ 17:00
 場 所：R&Bパーク札幌大通サテライト(札幌市)
 参加者：14名

10. 第3回 MOT(技術経営)実践講座

【講演】

テーマ：開発工学 -新商品の成功率向上のために-

NPO法人 失敗学会 理事・元 三菱化学(株) 理事 中田 邦臣

主 催：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター
 日 時：平成23年7月25日(月) 10:25 ~ 12:20
 場 所：室蘭工業大学 N302
 参加者：47名



11. 第2回 客員教授による

地域共同研究開発センター活動支援会議

日 時：平成23年7月28日(木) 14:30 ~ 17:30
 場 所：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター 産学交流室
 参加者：9名



12. 第1回 産学連携支援会議

日 時：平成23年8月10日(水) 15:00 ~ 17:30
 場 所：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター 産学交流室

参加者：18名

13. 北洋ものづくりテクノフェア 2011

【本学からの出展パネル】

「錆びにくく摩耗しにくいタフな鉄系材料 ステンレス球状炭化物鋳鉄材料」

ものづくり基盤センター長・もの創造系領域 教授 清水 一道

「柔軟弾性体のエンドミル加工」

もの創造系領域 准教授 寺本 孝司

「単相双方向回転超音波モータと超音波搬送装置」

もの創造系領域 教授 青柳 学

「白樺外樹皮からベチュリン製造技術の開発」

くらし環境系領域 特任教授 田畑昌祥, 助教 馬渡 康輝

「複合極限環境評価法による先進材料開発」

環境・エネルギーシステム材料研究機構(OASIS)

主 催：北洋銀行

後 援：経済産業省北海道経済産業局，北海道，札幌市，(社)北海道機械工業会
北海道経済連合会，(社)北海道商工会議所連合会，(社)北海道中小企業家同友会
札幌商工会議所，(独)中小企業基盤整備機構北海道支部
(独)産業技術総合研究所北海道センター，(地独)北海道立総合研究機構
(社)北海道発明協会，(財)北海道中小企業総合支援センター

(公財)北海道科学技術総合振興センター，北海道自動車産業集積促進協議会
札幌証券取引所，(財)省エネルギーセンター北海道支部，EMS-J P北海道 他
協 力：北海道大学，室蘭工業大学，小樽商科大学，帯広畜産大学，北見工業大学
札幌医科大学，札幌市立大学，函館工業高等専門学校，苫小牧工業高等専門学校
釧路工業高等専門学校，旭川工業高等専門学校

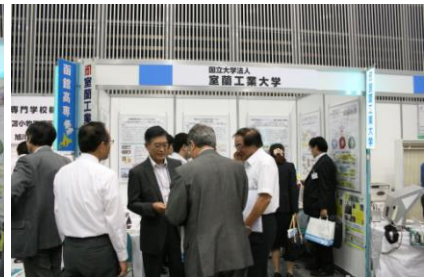
特別協力：帯広信用金庫

協 賛：札幌コンベンションセンター

日 時：平成23年8月19日(金) 10:00～17:00

場 所：札幌コンベンションセンター(札幌市)

参加者：約3,700名 参加企業：149社



14. 「環境・ものづくり未来セミナー in 室蘭」～ 環境都市から資源の創出を！～

～ 移動工業試験場 ～ (環境関連産学技術開発促進事業)

【講演】

テーマⅠ：レアメタルのリサイクルについて

もの創造系領域 助教 葛谷 俊博

テーマⅡ：リサイクルのための粉碎処理技術

北海道立総合研究機構 工業試験場 環境エネルギー部 内山 智幸

テーマⅢ：都市鉱山からのレアメタルリサイクルについて

北海道立総合研究機構 工業試験場 環境エネルギー部 富田 恵一

主催：地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 産業技術研究本部

共催：(財)室蘭テクノセンター

後援：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター，北海道胆振総合振興局，室蘭市 他

日時：平成23年9月9日(金) 13:30～16:00

場所：(財)室蘭テクノセンター(室蘭市)

参加者：59名

15. 産学交流プラザ「創造」北海道電力(株)京極発電所見学会

日時：平成23年9月13日(火) 8:15～18:50

場所：北海道電力(株)京極発電所(虻田郡京極町)

参加者：37名

16. 北海道医療産業研究会 第3回定例会議

【事例紹介】

テーマ：医療生活産業へのデザインと看護学の連携

札幌市立大学 理事長・学長 教授 原田 昭

【各プロジェクトの概要報告】

日時：平成23年9月14日(水) 15:00～17:00

場所：R&Bパーク札幌大通サテライト(札幌市)

参加者：14名



17. 第3回道内電気計装エンジニアリング研修会

日時：平成23年9月16日(金) 10:00～17:00

場所：ニッテツ北海道制御システム(株)(室蘭市)

参加者：37名



18. イノベーション・ジャパン 2011 大学見本市／第10回産学官連携推進会議 同時開催

【本学からの出展パネル】

「ライフサイエンス：高光学純度医薬品合成中間体の新しい合成法」

暮らし環境系領域 教授 中野 博人

「レーザー皮膚血流・血液濃度変化同時イメージング」

もの創造系領域 教授 相津 佳永

主催：(独)科学技術振興機構，(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構

共催：文部科学省，経済産業省，内閣府

日時：平成23年9月21日(水) 9:30～17:30，22日(木) 10:00～17:00

場所：東京国際フォーラム(東京都)

参加者：28,324名

19. (株)日本製鋼所・室蘭工業大学技術交流会

テーマⅠ：室蘭工業大学の最新研究シーズの紹介

地域共同研究開発センター 准教授 鴨田 秀一

テーマⅡ：高温熱流解析，シミュレーション

もの創造系領域 教授 埜上 洋



その他1件

【工場見学】

【総合討論】

日 時：平成23年10月7日(金) 13:30 ~ 16:30

場 所：(株)日本製鋼所 室蘭研究所(室蘭市)

参加者：18名

20. 新日本製鐵(株) 室蘭製鐵所・室蘭工業大学技術交流会

総合テーマ：室蘭工業大学のシーズ情報発信と討議

テーマⅠ：画像計測を応用した検査技術の高度化

もの創造系領域 准教授 高氏 秀則

テーマⅡ：ロボット技術を応用した先進的な自動化

もの創造系領域 准教授 花島 直彦

【工場見学】 新日本製鐵(株) 室蘭製鐵所 関連工場

ニッテツ北海道制御システム(株)

【総合討論】

主 催：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター，新日本製鐵(株)

日 時：平成23年10月11日(火) 13:00 ~ 17:45

場 所：新日本製鐵(株) 室蘭製鐵所(室蘭市)

参加者：14名



21. 産学交流プラザ「創造」他地域企業訪問

主 催：産学交流プラザ「創造」，室蘭地域環境産業推進コア，(財)室蘭テクノセンター
室蘭工業大学 地域共同研究開発センター

日 時：平成23年10月12日(水)，13日(木) 9:00 ~ 20:30

場 所：北海道バイオエタノール(株)，東洋農機(株)，(株)土谷特殊農機具製作所

参加者：21名



22. 第24回大学・企業技術交流会／フロンティア技術検討会

総合テーマ：企業のリスク管理の考え方とその実践

テーマⅠ：企業のリスクマネジメントについて

東京海上日動リスクコンサルティング(株)

経営企画室 企画グループ 主席研究員 指田 朝久

テーマⅡ：中小企業の事業継続計画(BCP)について

東京海上日動リスクコンサルティング(株) ビジネスリスク事業部

事業継続グループ 主任研究員 川原場正義

テーマⅢ：事故からの克服とその後のリスク管理

(株)西野製作所 代表取締役社長 西野 義人

【産・学・官交流会】

主 催：室蘭地域産学官連携事業実行委員会

委員会構成

室蘭工業大学 地域共同研究開発センター
室蘭工業大学 地域共同研究開発センター 研究協力会
(財)室蘭テクノセンター，産学交流プラザ「創造」

後 援：北海道胆振総合振興局，室蘭市，登別市，伊達市
室蘭商工会議所，登別商工会議所，伊達商工会議所
室蘭信用金庫，伊達信用金庫，北洋銀行，北海道銀行
日本政策金融公庫，北海道新聞社 室蘭支社，室蘭民報社
北海道中小企業家同友会 西胆振支部，北海道 I M連携促進会

日 時：平成 23 年 10 月 19 日(水) 14:00 ～ 19:15

場 所：中嶋神社 蓬岫殿(室蘭市)

参加者：104 名



2.3. 高度技術研修(函館会場)

テーマⅠ：非鉄金属材料の腐食 ～ 銅・アルミニウムを中心に ～

もの創造系領域 講師 境 昌宏

テーマⅡ：異種金属接触腐食のメカニズムと事例および対策

(株)竹中工務店 技術研究所 建設技術研究部 部長付 山手 利博

テーマⅢ：建築および熱交換器用銅管の腐食とその対策

室蘭工業大学 客員教授(ショーワ(株) 代表取締役社長) 山田 豊

テーマⅣ：亜鉛めっき鋼管の腐食事例と対策

新菱冷熱工業(株) 中央研究所 材料環境グループ 松川 安樹

テーマⅤ：各種環境水のレジオネラ属菌対策

アクアス(株) つくば総合研究所 所長 縣 邦雄

主 催：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター

共 催：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター 研究協力会

(社)腐食防食協会 北海道支部，(社)空気調和・衛生工学会北海道支部



(社)軽金属学会 北海道支部, 公益財団法人 函館地域産業振興財団
函館管工事業協同組合

日 時 : 平成 23 年 10 月 26 日 (水) 13 : 00 ~ 17 : 20

場 所 : ロワジールホテル函館 (函館市)

参加者 : 67 名



2.4. 高度技術研修(札幌会場)

テーマⅠ : 非鉄金属材料の腐食 ~ 銅・アルミニウムを中心に ~

もの創造系領域 講師 境 昌宏

テーマⅡ : 異種金属接触腐食のメカニズムと事例および対策

(株)竹中工務店 技術研究所 建設技術研究部 部長付 山手 利博

テーマⅢ : 建築および熱交換器用銅管の腐食とその対策

室蘭工業大学 客員教授(ショーワ(株) 代表取締役社長) 山田 豊

テーマⅣ : 亜鉛めっき鋼管の腐食事例と対策

新菱冷熱工業(株) 中央研究所 材料環境グループ 松川 安樹

テーマⅤ : 各種環境水のレジオネラ属菌対策

アクアス(株) つくば総合研究所 所長 縣 邦雄

主 催 : 室蘭工業大学 地域共同研究開発センター

共 催 : 室蘭工業大学 地域共同研究開発センター 研究協力会

(社)腐食防食協会 北海道支部, (社)空気調和・衛生工学会北海道支部

(社)軽金属学会 北海道支部, 札幌市管工事業協同組合

日 時 : 平成 23 年 10 月 28 日 (金) 13 : 00 ~ 17 : 20

場 所 : 札幌コンベンションセンター(札幌市)

参加者 : 75 名



25. 第3回 CRD セミナー

【講演】

テーマⅠ：橋梁の補修・補強法に係る工大での取り組み

くらし環境系領域 教授 岸 徳光

テーマⅡ：非鉄金属材料の腐食 ～銅・アルミニウムを中心に～

もの創造系領域 講師 境 昌宏

【情報交換会】

主催：室蘭工業大学 同窓会小樽支部(札幌支部定時総会で開催)

日時：平成23年10月29日(土) 16:30～17:20

場所：オーセントホテル小樽(小樽市)

参加者：35名



26. ビジネス EXPO「第25回北海道 技術・ビジネス交流会」(出展)

【本学からの出展パネル】

「橋梁の健全性評価と長寿命化」

くらし環境系領域 教授 岸 徳光

「先進国型シッパーサイクルシステムの構築」

ものづくり基盤センター長・もの創造系領域 教授 清水 一道

「柔軟弾性体のエンドミル加工」

もの創造系領域 准教授 寺本 孝司

「単相双方向回転超音波モータ」

もの創造系領域 教授 青柳 学

「複合極限環境評価法による先進材料開発」

文部科学省先端研究施設共用促進事業 環境・エネルギーシステム材料研究機構(OASIS)

主催：北海道 技術・ビジネス交流会実行委員会

日時：平成23年11月10日(木) 10:00～17:30, 11(金) 9:30～17:00

場所：アクセスサッポロ(札幌市)

参加者：17,970名



27. 第4回 CRD セミナー(産学交流プラザ「創造」 室蘭工大シーズ紹介)

テーマⅠ：「何かの最小と最大へのアプローチ」

しくみ情報系領域 教授 施 建明

テーマⅡ：「かしこい有機材料—光に応答する機能性有機材料の開発」

くらし環境系領域 教授 中野 英之

日 時：平成23年11月17日(木) 15:00 ~ 17:30

場 所：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター 産学交流室

参加者：20名



28. 西いぶりの企業力 2011

【本学からの出展パネル】

「橋梁の健全性評価と長寿命化」

くらし環境系領域 教授 岸 徳光

「先進国型シップリサイクルシステムの構築」

ものづくり基盤センター長・もの創造系領域 教授 清水 一道

「地域医療のための情報社会基盤技術の創成」

サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー長・もの創造系領域 教授 相津 佳永

「家庭用健康診断支援ロボットの開発」

もの創造系領域 准教授 湯浅 友典

「ロボットアリーナにおける地域貢献活動」

ロボットアリーナ事業推進室 室長 教授 相津 佳永
構成員 教授 青柳 学, 准教授 花島 直彦, 准教授 寺本孝司
准教授 関根 ちひろ, 准教授 本田 泰, 准教授 高氏 秀則

「ロボットサッカーコンテスト」等

主 催：(社)北海道中小企業家同友会 西胆振支部

日 時：平成23年11月20日(日) 11:00 ~ 16:00

場 所：室蘭市市民会館(室蘭市)

参加者：200名



29. 社会連携統括本部発足講演会

【講演】

司会 地域共同研究開発センター・産学官連携コーディネーター 石坂 淳二
開会挨拶

学長 佐藤 一彦

「社会連携統括本部の設立にあたって」

社会連携統括本部長・理事 野口 徹

「科学技術政策の動向と産学官連携施策の方向性」

文部科学省 科学技術・学術政策局 産業連携・地域支援課 専門職 竹下 勝

【特別講演】

テーマⅠ：信州大学における産学連携活動 ～繊維学部キャンパスにおける活動を中心に～

信州大学 繊維学部 創造工学系 SVBLセンター長・教授 小西 哉

テーマⅡ：室蘭工業大学における社会連携の使命と展望

地域共同研究開発センター 准教授 鴨田 秀一

まとめと閉会挨拶

理事補・教授 板倉 賢一

【情報交換会】

日時：平成23年11月30日(水) 15:00～17:30

場所：室蘭工業大学 事務局 大会議室

参加者：77名



30. 第5回 CRD セミナー(苫小牧地域産学官金連携セミナー)

テーマⅠ：「大規模広域災害発生時の情報通信の状況と対策」

苫小牧高専 電気電子工学科 教授 奈須野 裕

テーマⅡ：「東日本大震災における組織的心理支援活動

—日本赤十字社の急性期支援—」

ひと文化系領域 准教授 前田 潤



【情報交換会】

主催：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター，苫小牧工業高等専門学校

後援：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター 研究協力会，中小企業家同友会 苫小牧支部
苫小牧商工会議所

日時：平成23年12月5日(月) 16:30～18:20

場所：苫小牧経済センタービル(苫小牧市)

参加者：28名

31. 社会医療法人 製鉄記念室蘭病院との共同研究に関する打合せ

日時：平成24年1月19日(木) 9:00～12:00

場 所：社会医療法人 製鉄記念室蘭病院(室蘭市)
参加者：7名

3 2. 医工連携研修会(イノベーションシステム整備事業)

「平成 23 年度文部科学省大学等産学官連携自立化促進プログラム(コーディネーター支援型)」

【講 演】

司会 地域共同研究開発センター・産学官連携コーディネーター 石坂 淳二

開会挨拶

社会医療法人 製鉄記念室蘭病院 理事 事務長 山口 秀一

研修会趣旨説明

もの創造系領域 准教授 花島 直彦

特別講演

「RTCにおける介護支援ロボット関連技術の研究開発」

理化学研究所 理研-東海ゴム人間共存ロボット連携センター

ロボット感覚情報研究チーム・チームリーダー 向井 利春

講演

「ロボットによる体操呈示とモニタリング」

もの創造系領域 准教授 花島 直彦

質疑応答(総合討議)

閉会挨拶

地域共同研究開発センター長・教授 加賀 壽

主 催：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター

後 援：社会医療法人 製鉄記念室蘭病院

日 時：平成 24 年 2 月 8 日(水) 17:45 ~ 20:00

場 所：社会医療法人 製鉄記念室蘭病院(室蘭市)

参加者：53名



3 3. 本学シーズ紹介(室蘭市商工会所建設部会)

「本学の建設社会基盤系教員の研究内容を紹介」

主 催：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター

日 時：平成 24 年 2 月 28 日(火) 13:30 ~ 14:15

場 所：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター 産学交流室

参加者：19名

3 4. 連携・協力協定締結 1 周年記念(室蘭工業大学・土木研究所 寒地土木研究所 共同セミナー)

積雪寒冷地域における社会基盤施設の長寿命化に向けて

司会 暮らし環境系領域 教授 木幡 行宏

開会挨拶

学長 佐藤 一彦

【セミナー】

基調講演

「土木構造物の長寿命化と維持管理」

独立行政法人 土木研究所 理事長 魚本 健人

研究紹介

1. 「橋梁の補修・補強に係る室蘭工大の取り組み」

くらし環境系領域 教授 岸 徳光

2. 「コンクリート構造物の長寿命化に向けて」

寒地土木研究所 寒地基礎技術研究グループ 耐寒材料チーム

上席研究員 田口 史雄

3. 「海域施設の長寿命化に向けて」

くらし環境系領域 教授 木村 克俊

4. 「農業水利施設の凍害劣化と長寿命化」

寒地土木研究所 寒地農業基盤研究グループ 水利基盤チーム

上席研究員 中村 和正

閉会挨拶

独立行政法人 土木研究所 寒地土木研究所 所長 川村 和幸

【情報交換会】

主催：室蘭工業大学，独立行政法人 土木研究所 寒地土木研究所

日時：平成 24 年 2 月 28 日(火) 14:30 ~ 19:40

場所：室蘭工業大学 A304 講義室

参加者：230 名



35. 第6回 CRD セミナー

総合テーマ1：連続繊維（FRP）板を用いた RC 柱部材の水中耐震補強工法の開発

テーマⅠ：FRP 板水中補強した RC 梁の曲げ耐荷性能に及ぼすコンクリート表面処理の影響

くらし環境系領域 講師 栗橋 祐介

テーマⅡ：FRP 板水中補強した RC 梁の曲げ耐荷性能に及ぼす補強材の材料特性の影響

くらし環境系領域 教授 岸 徳光

テーマⅢ：FRP 板水中巻付け補強したコンクリート円柱の圧縮荷重実験

客員教授(三井住友建設(株) 技術開発センター 副センター長) 三上 浩

総合テーマ2：積雪寒冷地域における道路構造物の高度化・長寿命化に関する研究

テーマⅠ：北海道内の国道における橋梁の劣化状況に関する現状分析

客員教授((株)構研エンジニアリング 常務取締役) 川瀬 良司

テーマⅡ：鋼方杖ラーメン橋の固有振動特性に関する現地実験および数値解析

くらし環境系領域 講師 小室 雅人

テーマⅢ：耐候性鋼材を用いた既設橋梁の腐食損傷推定に関する簡易評価手法の可能性検討
くらし環境系領域 教授 岸 徳光

主 催：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター
日 時：平成24年3月9日(金) 10:00～12:15
場 所：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター 産学交流室
参加者：32名



36. 産学官連携フォーラム(イノベーションシステム整備事業)

「平成23年度文部科学省大学等産学官連携自立化促進プログラム(コーディネーター支援型)」
— 平成23年度産学官連携活動報告 —

司会 地域共同研究開発センター・産学官連携コーディネーター 石坂 淳二

開会挨拶

地域共同研究開発センター 准教授 鴨田 秀一

【講演】

平成23年度産学官連携活動報告

「地域に密着した産学官連携活動の現状とこれからの課題」

地域共同研究開発センター センター長・教授 加賀 壽

【情報交換会】

主 催：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター

日 時：平成24年3月13日(火) 18:00～20:15

場 所：中嶋神社 蓬峯殿(室蘭市)

参加者：59名



37. 胆振ものづくり産業連携推進セミナー

【講演】

(1) 特別講演：「ものづくり産業と支援機関との関わり」

講師 地域共同研究開発センター センター長・教授 加賀 壽

(2) 特別講演：「自動車産業におけるサプライチェーン」

講師 いすゞエンジン製造北海道(株) 代表取締役社長 大澤 正伸

主催者

「胆振ものづくり産業振興連携会議」

・構成機関 (株)日本政策金融公庫室蘭支店, (株)北洋銀行, (株)北海道銀行, 室蘭信用金庫

苫小牧信用金庫，伊達信用金庫，室蘭工業大学，苫小牧工業高等専門学校
(財)室蘭テクノセンター，(財)道央産業技術振興機構
苫小牧市テクノセンター，室蘭商工会議所，苫小牧商工会議所
登別商工会議所，伊達商工会議所，北海道中小企業団体中央会胆振支部
室蘭市，苫小牧市，登別市，伊達市，北海道胆振総合振興局

日 時：平成 24 年 3 月 14 日(水) 13:30 ～ 16:30

場 所：室蘭プリンスホテル(室蘭市)

参加者：40 名

38. 医工連携「共同研究中間報告会」

【報 告】

テーマⅠ：「介護予防体操へのロボット技術の応用」

もの創造系領域 准教授 花島 直彦

テーマⅡ：「ICT(情報通信技術)による健康への取り組み」

もの創造系領域 准教授 魚住 超

日 時：平成 24 年 3 月 15 日(木) 17:45 ～ 19:00

場 所：社会医療法人 製鉄記念室蘭病院(室蘭市)

参加者：60 名

39. 産学交流プラザ「創造」 地域会社見学

主 催：産学交流プラザ「創造」，室蘭地域環境産業推進コア，(財)室蘭テクノセンター
室蘭工業大学 地域共同研究開発センター

日 時：平成 24 年 3 月 21 日(水) 14:00 ～16:30

場 所：興和工業(株)(登別市)

参加者：18 名

40. 事業推進検討会

【討 論】

1. 平成 23 年度 CRD センター事業について
2. 新しい産学官連携体制について
3. その他

日 時：平成 24 年 3 月 22 日(木) 13:30 ～ 15:00

場 所：室蘭工業大学 事務局 中会議室

参加者：23 名



41. 「次世代人材育成プログラム：室蘭経営革新塾」修了

— ビジネススクール(経営学大学院)のエッセンス・コース —

日 時：平成 23 年 11 月 24 日(木) ～ 平成 24 年 3 月 24 日(土) 12 回 19 時～21 時まで

場 所：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター 産学交流室

参加者：延べ参加者 312 名



4 2. 定期刊行物(平成 24 年 3 月)

1. 研究報告 No.22
2. センターニュース No.24
3. ニュースレター No.98 ~ No.99

4 3. 学内講義棟での展示

教員の研究シーズパネル展示(16 テーマ/月)

5. 地域共同研究開発センター 研究協力会

役員名簿

平成23年6月9現在

役員名	会社名	役職	氏名
会長	新日本製鐵(株) 室蘭製鐵所	製品技術部長	石井 博美
副会長	王子製紙(株) 苫小牧工場	工場長代理	植村 彰彦
副会長	(株)日本製鋼所 室蘭製作所	理事副所長	柴田 尚
副会長	(株)光合金製作所	代表取締役会長	井上 一郎
理事	日鋼検査サービス(株)	代表取締役社長	小澤 幸男
理事	函館どつく(株) 室蘭製作所	取締役所長	武田 勇一
理事	(株)永澤機械	代表取締役	永澤 勝博
理事	(株)ドーコン	営業部長	松橋 良和
監事	(株)栗林商会	取締役	北野 剛
監事	日鐵セメント(株)	取締役	小崎 洋一

任期：平成23年4月1日～平成25年3月31日

研究協力会加入企業

(平成 24 年 4 月 28 日現在)

企業名	住所	代表者名	電話番号
	業務内容		
1 ㈱アール アンドイー	〒059-0462 登別市富浦町 223 番地 1	代表取締役 北山 茂一	0143-80-2233
産業廃棄物処理業(収運・中間・最終)及び再生材等の販売 http://www.rande.co.jp/			
2 ㈱EMI	〒006-0005 札幌市中央区北 5 条西 9 丁目 1-11 ジェミスビル 401	代表取締役社長 石森 鋼男	011-879-5050
3 伊藤組土建㈱	〒060-8554 札幌市中央区北 4 条西 4 丁目 1	取締役社長 津司 武	011-261-6111
1)建設業, 2)宅地建物取引業, 3)建築の設計および工事監理 当社は明治 26 年創業以来, 北海道を拠点として営業してきました。当社の理念の「誠心誠意」を忘れず, 土木建築の建設工事を通じて北海道の発展に貢献していきたいと考えています。 http://www.itogumi.co.jp/			
4 岩田地崎建設㈱	〒060-8630 札幌市中央区北 2 条東 17 丁目 2 番地	代表取締役社長 岩田 圭剛	011-221-2221
1)建築工事, 2)土木工事, 3)その他 建設工事全般に関する企画, 測量, 設計, 監理, 施工, エンジニアリング及びコンサルティング。 http://www.iwata-gr.co.jp/			
5 ㈱エーティック	〒063-0801 札幌市西区二十四軒 1 条 5 丁目 6-1	代表取締役 舟田 清志	011-644-2845
1)環境調査, 2)地質調査, 3)各種計画・設計, 4)防災対策, 5)計測・解析, 6)施工・維持管理など, プランニングからフィールドワークまで一貫したコンサルティングを提供する総合建設コンサルタントです。 http://www.a-tic.co.jp			
6 ㈱エスイーシー	〒040-8632 函館市末広町 22 番 1 号	代表取締役社長 永井 英夫	0138-22-7188
1)情報通信系ソフト・ファーム・ハードウェア設計開発, 2)各種アウトソーシングサービス, 3)システムインテグレーション, インターネットプロバイダ http://www.hotweb.or.jp/sec/			
7 王子製紙㈱ 苫小牧工場	〒053-8711 苫小牧市王子町 2 丁目 1-1	執行役員工場長 早野 裕康	0144-32-0111
http://www.ojipaper.co.jp/			
8 極東高分子㈱	〒047-0261 小樽市銭函 2 丁目 56 番 1 号	代表取締役社長 近藤 晴之	0134-62-2111
包装資材(ポリエチレン製品, ラミネート製品, 成型容器段ボール製品)の製造, 販売。 http://www.kyokutou.co.jp/			
9 栗林機工㈱	〒050-0082 室蘭市寿町 3 丁目 4-2	代表取締役社長 栗林 徳光	0143-44-6001
1.設計業務(機械・プラント配管等の計画設計), 2.各種機械・プラントの据付及びメンテナンス, 工事管理(マネジメント), 配管工事(下水, 上水, 油圧, 石油・化学プラント一式), 3.土木, 建築工事(一級建築士事務所)一式, 4.大型油圧クレーン賃貸業(550t, 450t その他各種保有), 5.技術士事務所(機械・総合技術監理), 6.安全コンサルタント事務所(機械・建築), 7.陸上・海上輸送営業業務			

		得意分野：1)大型機械据付計画及び現地工事，2)石油・化学プラントの動 機械，静機械メンテナンス(全国展開の実績)，3)港湾荷役機械・天井クレー ンの据付・点検・補修業務，4)油圧機器，配管の設計及び施工 http://www.kikounet.co.jp/		
10	㈱栗林商会	〒051-0023 室蘭市入江町1-19	取締役社長 栗林和徳	0143-24-7011 http://www.kurinet.co.jp/
11	㈱コーノ	〒041-0824 函館市西桔梗町213番地の82	代表取締役 阿部俊夫	0138-49-1071 「熱と水をキーワードに北海道，東北で新産業を創造する」を経営理念とし，熱と水に係わる省エネ機器を開発・製造・販売しています。 平成21年度，熱源内蔵型FF式真空暖房機「HPH」を自社開発し発売。 21年度「北海道新技術・新製品開発賞」受賞。 http://www.kohno.info/
12	三晃化学㈱	〒060-0051 札幌市中央区南1条東5丁目1番地17	取締役社長 渡邊民嗣	011-221-5221 農業資材・産業資材の製造・卸売。 http://www.sankoul.com/
13	産業振興㈱ 室蘭事業所	〒050-0087 室蘭市仲町12	執行役員所長 山本弘明	0143-44-5334 http://www.sangyoshinko.co.jp/
14	三和工業㈱	〒059-0034 登別市鷺別町6丁目25番2	代表取締役 宮城一裕	0143-86-6106 大型発電機用リテーニングリング材の機械加工専門会社。(リテーニング リング材は特別な高強度非磁鋼で製造されます。)
15	㈱CSソリューション	〒060-0042 札幌市中央区大通り5丁目11番地 大五ビル2F	代表取締役 澁谷良治	011-232-1222 1)ソフトウェア開発，2)画像・動画処理ソフトウェア開発 http://www.cs-sol.co.jp/
16	清水鋼鐵㈱ 苫小牧製鋼所	〒059-1372 苫小牧市字勇払145-13	代表取締役社長 苫小牧製鋼所長 清水孝	0144-56-1111 直流電気炉により道内発生の鉄スクラップを主原料に溶解し鋼塊・鉄筋丸 棒を製造・販売しております。道内におけるリサイクル産業を振興し循環 型社会の形成に寄与しております。 http://www.shimizusteel.co.jp/
17	ショーワ㈱	〒502-0843 岐阜県岐阜市早田東町2丁目1番地	代表取締役社長 山田豊	058-232-1131 「産業水処理事業(冷凍空調水処理剤・洗浄剤)，ブライン事業(工業用， 床暖房，ソーラー，ロードヒーティング，等用ブライン)，オートケミカ ル事業(クーラント，ブレーキ液)の製造販売及び調査研究事業(腐食調 査，水分析)」 http://www.showa-water.co.jp/
18	新日本製鐵㈱ 棒線事業部 室蘭製鐵所	〒050-8550 室蘭市仲町12番地	執行役員・所長 田邊孝治	0143-47-2111 創業は1909年(明治42年)，北海道唯一の高炉を持つ製鐵所として発足し， 夕張の石炭と噴火湾の砂鉄を原料として鉄づくりが始まった。 現在でも道内唯一の銑鋼一貫製鐵所として，主に自動車のエンジンや駆動 系，足まわり部品等に使用される高品質な特殊鋼棒鋼線材を製造してい る。 プラスチックリサイクル事業や「海の森づくり」等地球環境改善の取り組 みも行なっている。 http://www.nsc.co.jp/muroran/

19	(株)スガテック 室蘭支店	〒050-0087 室蘭市仲町12 製鐵・化学・電力並びに環境分野を中心とした各種機械プラント設備の設計・製作・建設及びメンテナンス。 http://www.sugatec.co.jp/	執行役員支店長 東野 邦夫	0143-44-2223
20	千住金属工業(株)	〒120-8555 東京都足立区千住橋戸町23 はんだ各種・はんだ付装置・オイルレス軸受等の開発・製造・販売を行ない、高いシェアを持っています。 環境対応鉛フリーはんだの世界一のメーカーで、特に世界トップシェアのはんだボールにおいて最小30 μ mのはんだボールを作る技術を開発し、次世代実装技術の開発に貢献できるように努力をしています。 http://www.senju-m.co.jp/	取締役社長 長谷川 水悦	03-3888-5151
21	太平工業(株) 室蘭支店	〒050-0082 室蘭市寿町3丁目1番3号 http://www.taiheikogyo.co.jp/	執行役員支店長 河津 千尋	0143-44-1020
22	(株)田中組	〒060-0006 札幌市中央区北6条西17丁目17-5 1)土木建築工事業, 2)宅地建物取引業, 3)測量業, 4)土木建築設計及び管理, 5)土木建築用資材・機械器具の販売及び斡旋, 6)前各号に付帯関連する一切の事業 http://www.tanakagumi.co.jp/	取締役社長 阿部 芳昭	011-611-3331
23	(株)電制	〒067-0051 江別市工栄町8番地の13 ・各種電力監視制御システムの開発・設計・製造 ・ダム管理システムや各種通信システム等の開発・設計・製造 ・福祉機器や各種センサーの開発等 http://www.dencom.co.jp/	代表取締役 田上 寛	011-380-2101
24	(株)東和	〒059-1275 苫小牧市字錦岡26番地4 http://www.kk-towa.jp	代表取締役 渡辺 芳和	0144-67-7235
25	(株)ドーコン	〒004-8585 札幌市厚別区厚別中央1条5丁目4-1 http://www.docon.jp/	代表取締役社長 平野 道夫	011-801-1510
26	(株)土木技術 コンサルタント	〒080-0011 帯広市西1条南27丁目1 1)一般土木に関する設計(道路・橋梁・河川), 2)測量調査, 環境調査, 地質・土質調査, 3)レクリエーション施設設計, 4)都市環境設計, 5)土木施工計画, 管理及び積算, 6)維持・補修の調査, 設計, 7)その他技術資料作成及び上記に付帯関連する業務 http://www.doboku-gijutsu.cp.jp/	代表取締役 土井 清夫	0155-25-9129
27	(株)永澤機械	〒050-0083 室蘭市東町3丁目1番5号 当社は、精密切削加工を中心に素材の熱処理から機械加工、仕上げ組み立てまでの一貫製造を行い、各種産業機械部品等を製作させて頂いています。	代表取締役 永澤 勝博	0143-44-2888
28	(株)檜崎製作所	〒050-8570 室蘭市崎守町385番地 弊社は、水処理等環境製品、船舶上架設、鉄管・ゲート、鉄鋼製品及び橋梁のメーカーとして、北海道を中心に全国的に事業を展開しています。 最近の環境部門においては、酪農パーラー排水処理設備「パラクリン」、誘導加熱融雪ヒーター「ゆうゆうヒーター」、河川・湖沼・ダム・閉鎖性海域等の水質を改善する高濃度酸素溶解装置「アクオン」など商品化する等、環境にフォーカスしながら進化を遂げています。 http://www.narasaki-ss.co.jp/	代表取締役社長 鈴木 博	0143-59-3611

29	(株)西野製作所	〒050-0075 室蘭市中島本町1丁目11番16号	代表取締役 西野 義人	0143-44-5945
		弊社は一般産業機械部品の製作及び修理を主業務として創業いたしました。現在では、溶射加工、硬質クロムメッキ、特殊溶接等の各種表面処理なども取り入れ、機械部品の寸法復元、耐久性性能復帰など高付加価値、多品種少量生産に一貫して対応できる体制を確立し、短納期、低価格を実現いたします。		
		http://nishinoseisakusyo.jp/		
30	(株)西村組	〒099-6404 紋別郡湧別町栄町133-1	代表取締役 西村 幸浩	01586-5-2111
		弊社は、(株)日本製鋼所で製作された大型溶接構造物、鋳鍛鋼品の試験・検査で長年培われた技術を用いて、プラントの総合保全に貢献致します。(各種非破壊検査、熱交換器伝熱管検査、各種材料試験、破損原因調査、余寿命診断、鉄鋼分析、環境分析)。		
		http://www.nishimura.co.jp/		
31	日鋼検査サービス(株)	〒051-8505 室蘭市茶津町4番地1	代表取締役社長 小澤 幸男	0143-22-8386
		弊社は、(株)日本製鋼所で製作された大型溶接構造物、鋳鍛鋼品の試験・検査で長年培われた技術を用いて、プラントの総合保全に貢献致します。(各種非破壊検査、熱交換器伝熱管検査、各種材料試験、破損原因調査、余寿命診断、鉄鋼分析、環境分析)。		
		http://www.nikkoukensa.co.jp/		
32	日鋼デザイン(株)	〒051-8505 室蘭市茶津町4番地	代表取締役社長 山田 富士夫	0143-24-3429
		機械設計のエンジニアリング会社であり、日本製鋼所の設計部門を担当し、更に室蘭地域技術開発支援事業等にも積極的に参加しています。3次元CADによる設計・モデリング、CAMによるNCデータ作成、CAEによる解析業務、更には非接触式3次元測定器による製品測定結果からの図面化業務にも新規に取り組んでいます。		
		http://www.murotech.or.jp/list/ndc/		
33	日鐵セメント(株)	〒050-8510 室蘭市仲町64	代表取締役社長 阿部 哲也	0143-44-1693
		地球環境に優しい高炉セメントを始め各種セメントの他、特殊製品としてセメント系地盤固化剤、地盤注入剤、コンクリート補修材等の製造・販売を通じて社会に貢献しています。		
		http://www.nittetsu-cement.co.jp/		
34	ニッテツテクノ &サービス(株)	〒050-0087 室蘭市仲町12	代表取締役社長 草野 祥昌	0143-47-2346
		鉄で培った豊かな技術とノウハウで、地球環境保全が注目される時代に相応しい技術を提供致します。主な業務分野は、1)成分分析、2)材料試験、3)環境アセスメント、4)省エネルギー診断で、お客様のニーズに迅速にお応えいたします。		
		http://www.nittetsu-techno.co.jp/		
35	ニッテツ北海道 制御システム(株)	〒050-0087 室蘭市仲町12番地	代表取締役社長 小崎 巧三	0143-47-2793
		1)計測制御システム、電気制御システム、電子応用機器、検査機器の設計・製作・販売及びメンテナンス、2)プロコン、シーケンサー、デジタル計装、FAパソコン、マイコンのソフト設計・回路設計及び制御盤設計		
		http://www.ncsfox.co.jp/		
36	ニッテツ室蘭 エンジニアリング(株)	〒050-0087 室蘭市仲町12	代表取締役社長 矢崎 尚	0143-47-2525
		1)各種自動機械・プラントの企画、設計、製作、据付等、2)大型鋼構造物の設計、製作、施行、3)土木建築物の設計、施行、4)各種設備の保全、診断、メンテナンス等、総合エンジニアリング会社として広範囲な業務を実行しております。		
		http://www.smex.co.jp/		
37	(株)日本製鋼所 室蘭製作所	〒051-8505 室蘭市茶津町4	常務執行役員 室蘭製作所長 早川 保	0143-22-0143
		日本製鋼所は、その名の示すとおり「鋼づくり」が原点です。室蘭製鐵所は当社の発祥の地として明治40年(1907年)に創業を始めました。創業以		

		来、長年にわたり培われた高度な技術を基礎に匠の技が創り出す優れた鋼は14,000トン鍛錬プレスに代表される世界最大級の各種生産設備により高品質の大型鍛鋼品、鋼板、鋼管、圧力容器などの製品群となり、世界のエネルギー産業を支えています。また最近では再生可能エネルギーである風力発電事業にも取り組んでいます。		http://www.jsw.co.jp/
38	日本通運(株) 室蘭支店	〒051-0001 室蘭市御崎町1丁目36番地2	支店長 高津 奉 宏	0143-22-1151 http://www.nittsu.co.jp/
39	函館どつく(株) 室蘭製作所	〒051-0036 室蘭市祝津町1丁目128	取締役所長 武田 勇 一	0143-27-1251 http://www.hakodate-dock.co.jp/
40	(有)馬場機械製作所	〒050-0074 室蘭市中島町4丁目17番9号	代表取締役 馬場 義 則	0143-45-4535 弊社は主に切削加工を中心に検査用試験片、治具、試作品製作、など略図、仕様書を似て部品、製品を提供しています。
41	(有)パテントワークス	〒041-0801 函館市桔梗町416番地24	代表取締役 笠井 文 雄	0138-34-7892 新規に発明した原石を先取りの感性と産学官での科学的な分析力により磨き上げ健康を促進、病気やけがの無い快適な生活をお手伝いする、時代の求める価値ある製品を創出、社会に活かされることを目的と致します。 http://patentworks.info
42	濱野鋼業(株)	〒050-0087 室蘭市仲町12	代表取締役社長 濱野 晃 一	0143-45-2701 http://www.hamano-kogyo.co.jp/
43	(株)光合金製作所	〒047-8686 小樽市港町6番1号	代表取締役会長 井上 一 郎	0134-32-1119 弊社は昭和二十二年の創業以来、寒冷地の快適な水環境の創造を企業理念に掲げ、寒冷地における不凍栓と関連機器の開発、製造、販売に取り組んでおります。 http://www.hikarigokin.co.jp/
44	(株)フジワラ	〒049-0101 北斗市追分3丁目2-7	代表取締役 藤原 鉄 弥	0138-48-7788
45	(株)不動テトラ 北海道支店	〒060-0001 札幌市中央区北1条西7丁目 3番地(ノステル札幌ビル)	支店長 石川 茂 樹	011-233-1640 http://www.fudotetra.co.jp/
46	(株)プラウシップ	〒003-0834 札幌市白石区北郷4条4丁目20-17	代表取締役 千葉 武 雄	011-875-5191 当社は、(株)白石ゴム製作所のグループ会社で、北海道中小企業家同友会、会員企業経営者4名と大学教授の出資によって『研究開発型の企業』として設立致しました。エンジン設計やコンピューターソフト開発の経験者の中で産業機械や福祉用具の設計・製作を得意としています。 http://www.plowship.com/
47	(株)北央技研	〒050-0063 室蘭市港北町1丁目3番15号	代表取締役 吉田 隆	0143-58-1122 各種金属材料の非破壊検査 http://www.hokuogiken.co.jp/
48	北海道三祐(株)	〒002-0856 札幌市北区屯田6条8丁目9番12号	代表取締役社長 笹浪 圭 吾	011-773-5121 1)一般土木事業、2)斜面崩壊防止事業、3)斜面緑化事業、4)パイプライン更正事業、5)コケ植物による環境改善事業 自然環境の保全・創出並びに生活環境の整備事業に徹し“土と水と緑の調和を築く”をモットーに社会に貢献しております。 http://www.dosanyu.co.jp/

49	北海道電力(株) 総合研究所	〒067-0033 江別市対雁2-1 電気事業の研究所として、電力設備の保守合理化・運用高度化を実現する研究、北国の快適な暮らしを提案する研究、北海道経済の活性化に寄与する研究などに取り組んでおります。	総合研究所長 木村 貢	011-385-6553 http://www.hepco.co.jp/
50	北興工業(株)	〒051-0023 室蘭市入江町1-63 弊社は昭和19年設立以来、海洋土木を中心に道路及び河川工事等の一般土木工事部門と快適な街づくりを目指す建築工事部門を有し、確かな技術と豊かな経験、創造力、更には品質と環境における国際規格の取得で、皆様のご信頼に応え、地域社会へ貢献する企業として邁進しています。	代表取締役 萩 濟	0143-23-0321 http://www.hokkoh-kogyo.co.jp/
51	(株)ほっこうハウス	〒050-0073 室蘭市宮の森町4丁目15番7号	代表取締役 石坂 嘉朗	0143-46-4018 http://hk-house.jp/
52	みぞぐち事業(株)	〒041-0824 函館市西桔梗町589番地44 コンクリート構造物(特にコンクリート橋梁)の診断・補修専門集団です。	代表取締役 溝口 裕康	0138-48-0810 http://www.mizoguchi-jigyuu.com/
53	宮脇大木建設(株)	〒060-0908 札幌市東区北8条東1丁目1-35	代表取締役社長 里館 幹雄	011-711-1156 http://www.kensonet.co.jp/miyawaki/
54	(株)村瀬鉄工所 札幌工場	〒007-0885 札幌市東区北丘珠5条4丁目4-55	専務取締役 上杉 信行	011-791-1187
55	室蘭ガス(株)	〒050-0081 室蘭市日の出町2丁目44番1号 当社は環境優位性の高い天然ガス・LPガス販売の他に、ガス機器全般や快適な空間造りの為のガスを使った冷房・暖房などの設計、販売、修理を通して環境に優しく安心・安全で豊かな暮らしのお手伝いをさせていただいています。	取締役社長 小林 敏彦	0143-44-3156 http://www.murogas.co.jp/
56	(財)室蘭 テクノセンター	〒050-0083 室蘭市東町4丁目28番1号 室蘭地域の中小企業振興の中核的支援機関として、室蘭工業大学との連携を図り、ものづくり創出支援をはじめとする各種制度を活用した企業の技術力向上、新製品・新技術の開発、市場開拓などの支援事業を行っています。	理事長 栗林 和徳	0143-45-1188 http://www.murotech.or.jp/
57	大和工業(株)	〒050-0085 室蘭市輪西町1丁目4番8号 弊社は昭和25年の創立以来、耐火物施工、鋼構造物施工等の業務を受注してまいりましたが、これと同時に大型窯炉設備の建設にも参加し、国内製鐵所の高炉、コークス炉等の建設に携わって参りました。今後も技術向上を進め客先のご要望にお応えする所存です。	代表取締役社長 黒龍 雅英	0143-44-2664 http://www.f-yamato.co.jp/

(58社中57社)

未来をひらく技術者育む室工大

民間との共同研究活発

「創造的な科学技術で夢をかたちに」という目標掲げる室蘭工業大学。佐藤一彦学長は地域社会、国際社会の発展に貢献し、学術研究、人材育成を進める。民間企業など相互に研究、研究結果、設備を提供し、共同研究制度や、外部委託委託で研究する「委託研究制度」なども実施。産学連携の地域研究



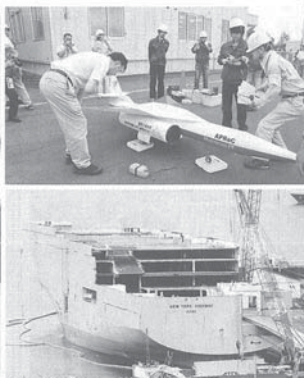
業とも共同研究を推進。航空宇宙システム、宇宙の新たな小惑星探査機開発の推進や、産学連携の安全・効果的なシステムを開発する「シリウス」プロジェクトも期待が高まる。一方、看護専門学校室蘭市高砂町内に開いたロボット「アノ」の人も昇中。室工大の魅力「地域連携の基盤を特長」。

佐藤一彦 室蘭工業大学学長



人材育成と知の拠点づくり

新日本製鉄の特殊鋼、日本製鋼所のアルミ半用機材、この世界で唯一の産品を産出する。地元企業との技術力があまらず、今後は「ものづくり」の拠点づくりを推進する。航空宇宙関連の共同研究にも力を注いでいる。地元企業や自治体との連携を強化している。



室工大が取り組む小型超音速飛行実験機の開発(右上)、シップリサイクルの解体実験(右下)、ロボットアノ(左)などが地域注目の的となっている

数多くの実用化事例 積極的な利用呼び掛け

東日本大震災で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

多岐にわたる地域貢献活動

ものづくり支援や公開講座も

地域に貢献する室工大は、震災後、先ず「ものづくり」の拠点づくりを推進する。震災後、先ず「ものづくり」の拠点づくりを推進する。震災後、先ず「ものづくり」の拠点づくりを推進する。



今年秋に完成、入居できる女子寮。22室を設け、各部屋にトイレ、洗面台を備える快適空間だ(完成予定地)



ものづくり体験で人気の「ものづくり基礎センター」

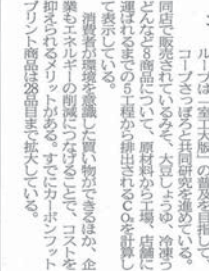
熱電変換の新素材開発

エネルギー問題の解決策として注目されている。熱電変換効果の高い熱電材料を開発している。産学連携のグループは高温圧力合成法を用い、熱電変換に用いる最新素材の開発に取り組んでいる。



コープとCO2削減研究

地球温暖化防止の観点から、CO2削減が求められる。コープと共同研究を進めている。コープは「室工大」の普及を目的として、CO2削減に取り組んでいる。



希土類を再生して活用

スマートフォンや携帯電話など生活に欠かせない電子機器に使われている希土類。室工大は再生技術を開発している。再生技術を開発している。



学びやすい環境

学びやすい環境を整える。学生が活躍できる環境を整える。学生が活躍できる環境を整える。



～創造的な科学技術で夢をかたちに～

室蘭工業大学は、自然豊かなものづくりのまち室蘭の環境を活かし、総合的な理工学教育を行い、未来をひらく科学技術者を育てるとともに、人間・社会・自然との調和を考えた創造的な科学技術研究を推進し、地域社会からは国際社会における新たな拠点として豊かな社会の発展に貢献します。

室蘭工業大学 MURORAN INSTITUTE OF TECHNOLOGY

〒050-8585 室蘭市水元町27番1号

0143-46-5024 (企画・評価部) 0143-46-5162 (入試課) 0143-46-5021 (地域連携推進課)

http://www.muroran-it.ac.jp/

室 蘭 民 報

新会長に北山氏

西胆振・産学交流
プラザ「創造」

西胆振の企業と室工
大で構成する産学交流
プラザ「創造」(会長
・鈴木高士興和工業社
長)の平成23年度総会
が30日、室蘭市宮の森
町の蓬峯殿で開かれ、

新会長に北山茂二ア
ル・アンド・イー社長
を選任した。他地域企
業視察会など本年度事
業計画を決定した。

会員28人が出席。鈴
木会長はあいさつで
「安全で再生可能な工
ネルギー構築へ、地域
づくりの礎になりた
い」と述べた。

本年度事業計画では
北洋銀行ものづくりテ
クノフェア見学(8
月)、室工大シーズ発

表会参加(9月)、帯
広市・清水町での他地
域企業視察会(10月)
などを決めた。

(山田晃司)

選任された会長を除
く主な23、24年度役員
は次の通り。(敬称略)
▽副会長 加賀壽
(再)永澤勝博(新)
▽幹事 中田孔幸(再)
鈴木高士、米山勝久、
佐々木智弘、富樫良浩
(以上新)▽会計監事
齊藤崇(新)

室工大・ロボットアリーナ

開設1周年記念 フォーラム実施

9月、最先端の技術紹介

室蘭工業大学(佐藤一彦学長)は、地域公開型施設「ロボットアリーナ」の開設1周年を記念したフォーラムを9月2、3の西日、室蘭市市民会館で開く。当日は記念講演、討論会を通して最先端のロボット技術を披露する。

同アリーナは技術者向けの講習会や研究・開発を進め、地域や産業界への貢献を目指し

ている。海外の大学との教育連携や市民向けサロンも設置。これまでに学生はじめ、小学生から大人まで千人が利用している。

フォーラムでは、立命館大学・先端ロボテイクス研究センターの金岡克弥教授が「あんなロボットは、なぜ売れないのか?ロボット工学の本質を礎とした非主流のすゝめ」と題して記念講演する。

引き続き、「ロボット分野への進出に向けてはじめての一步を踏み出すために」をテーマに討論に入る。出席者は同大地域共同研究開発センター・加賀壽センター長、北陽電機経営企画本部・嶋地直広室長、三菱電機特機システム、北海道総合研究機構・多田達実研究主幹、同アリーナ事業推進室・相津佳永室長の4人。

会場には同大のキャラクターロボット「ムロびよん」や二足歩行ロボットのほか、同大で研究中のロボット機器を展示する予定。入場は無料。

同アリーナでは「1年間の成果を紹介するとともに、地域ニーズに根差した技術開発・地域貢献型研究の促進、地元企業の新分野進出の契機となれば」とフォーラムへの参加を呼び掛けている。

(佐藤重伸)

約千人が利用したロボットアリーナ。9日には開設1周年記念のフォーラムが開かれる



建機アタッチメント材料試験装置の切断試験を見る北山社長(左端)、清水教授(右から2人目)ら関係者



耐摩耗性高く割れにくい 建機用切断機^①の材料開発

試験装置が完成

廃棄物処理・処分業のオール・アンド・イ

材料の開発を目指す。海道21世紀総合研究所。事業では鋳鋼中の元素の配合を変えることで、耐摩耗性が高

オール・アンド・イーと室工大
シップリサイクルにも活用へ

北山社長は「耐摩耗性の高いアタッチメント実現でユーザーのニーズに応えたい」、清水一道室工大教授は「鋼板切断の効率化をシ

「(登別市富浦町、北を指す)シップリサイ

クルにも活用する。従来のラバンティの刃の材料は、割れにくいが高摩耗性が低い。ラバンティの刃を取り付けた切断機)の刃の寿命を3倍以上に延ばす新

数種類の刃をテストしながら、最適な材料の開発を図る。同時にスクラップ破砕試験装置も公開。破砕装置に取り付ける刃の最適な材料の開発を目指す。

(山田晃司)

西野製作所社長らが企業のリスク管理をテーマに講演した
フロンティア技術検討会



企業のリスク管理重要

西野製作所社長ら講演

室蘭でフロンティア技術検討会

フロンティア技術検討会・大学企業技術交流会(室蘭テクノセンター、室蘭工業大学など主催)が19日、室蘭市宮の森町の逢峽殿で開かれた。室蘭地域の企業関係者ら95人が、西野製作所(室蘭市中島本町)の西野義人社長(40)らの講演を通じて「企業のリスク管理」の重要性を学んだ。

(山田晃司)

テーマは東日本大震災を踏まえて設定した。最初の講演者は東

京海上日動リスクコン

サルティング(東京)

の指田朝久経営企画室

企画グループ主席研究

員。企業のリスクマネ

ジメントを「損失の危

険の管理」と規定し、

リスクの洗い出しから

評価・選別、対応組

織づくり、シミュレー

ションへと進むマネジ

メント方法を解説し

た。続いて同社の川原場

正義ビジネスリスク事

業部事業継続グループ

主任研究員が登壇。災

害発生時の組織体制や

対応方法などを想定し

た事業継続計画(BC

18年10月30日に発生した同社の第1工場火災とその後の備えについて講演した。火災状況と再建過程をスクリーンを使って説明。その上で「生産能力も売り上げも前年の半分に落ちたが、受注件数は減少しなかった」と顧客への感謝の言葉を口にした。

その後「災害に強い工場」を目標に掲げて講じた配電盤のボックス内への集約、防火壁・防火シャッターの設置、警報装置の強化などを紹介。「今できる対策を少しずつ積み重ねて、火災が万が一に起きてしまったら、被害を最小限に抑える備えをすべき」と苦い経験に基づく教訓を述べた。

最後に「当時、いろいろな方から励ましをいただいた。必要とされていることが分かる。必要とされるときは頑張る。これからも必要とされる企業であり続けたい」と締めくくった。

企業のリスク管理

フロントレア技術検討会・講演要旨

当社で今から5年前に発生した火災事故からの克服と今後のリスク管理について話し... 事務所と第1、第2、第3工場の建屋をつないで使用、焼失した第1工場は昭和30年代に建てられた木造部分と、昭和50年ごろに建てられた鉄骨造りをつなげていました。



第2、第3工場の一部にも及びました。鎮火後にまず考えたのは、われわれの商売を再開すること、従業員の雇用を維持すること、お客さんをつなぎ止めること、外注先の協力を取り付けること。幸いにも第2、第3工場の被害が少なく、電源が復旧した2

日頃から第2、第3工場の生産を再開できた。第2は大型機械のメッキ、研磨機が置いてあり、第3は溶接・溶射を行う設備があった。メインとなる工作機械はほとんどが第1工場にあつたため、生産能力は相当ダウンしたが、第2、第3が生きていたおかげで何とか動かせた。

えとなる機械を全国からかき集めました。年末までに仮設工場機械を立ち上げることができた。ただ、出火以前に生産能力を取り戻すために、新工場の建設を急ぐ必要があつた。生産能力は落ち、それに伴って売り上げも前年度比40、50%ダウンしていた。ただ、おかげさまで受注件数の減少はありませんでした。従業員の協力によつて被害のなかつた

危険要因探し対策を

西野製作所・西野義人氏

機械を昼夜交代番で稼働することを、外注先の協力を得、何とか最低限の生産能力を維持できました。新工場建設に当たっては、災害、火災に強い工場にしなければいけないと思ひました。

出火前、業績の拡大に伴つて工場増設を重ね、つなげて使つたことで、災害に對しての備えが十分ではなかつたことに思ひ至つた。新工場の建設や事務所などの修復と併せて、災害に強い工場に生まれ変わることを目指しました。

火災に對して強くなつた部分も、どこか燃えないように、燃える部分を全くなげしてしまつた。今回の出火で被災しなかつた工場では、また木造の部分が残つたが、全て撤去して改築した。出火原因や延焼の原因となりそ

うな部分を徹底して排除した。新工場建設に併せて全工場の火災報知器を完備した。増築を重ねていく中で、本来は工場の外に設置されてはいるはずのガスの収納設備が建屋と建屋の間にあるようになつてきたが、工場内に置かない設計にした。出火原因は特定はできなかつたが、漏電による火災ならつとつとつと、以前は壁にむき出して設置していたブレーカーを電源ボックス内に集約した。

延焼の要因の排除としては、増設を繰り返したため、隣接した工場同士の間を免れる構造になつていなくなつた。これについては防

火壁 防火シャッターを設置した。火災報知器、通報装置のほか、事務所内にはどこから火、煙が出ているかを表示するパネルを設置した。電源設備からの電気がどこに行つていなかつたのを分かるようにした。当然のことですが火災に對して強くなつた部分も、どこか燃えないように、燃える部分を全くなげしてしまつた。今回の出火で被災しなかつた工場では、また木造の部分が残つたが、全て撤去して改築した。出火原因や延焼の原因となりそ

うな部分を徹底して排除した。新工場建設に併せて全工場の火災報知器を完備した。増築を重ねていく中で、本来は工場の外に設置されてはいるはずのガスの収納設備が建屋と建屋の間にあるようになつてきたが、工場内に置かない設計にした。出火原因は特定はできなかつたが、漏電による火災ならつとつとつと、以前は壁にむき出して設置していたブレーカーを電源ボックス内に集約した。

延焼の要因の排除としては、増設を繰り返したため、隣接した工場同士の間を免れる構造になつていなくなつた。これについては防

火壁 防火シャッターを設置した。火災報知器、通報装置のほか、事務所内にはどこから火、煙が出ているかを表示するパネルを設置した。電源設備からの電気がどこに行つていなかつたのを分かるようにした。当然のことですが火災に對して強くなつた部分も、どこか燃えないように、燃える部分を全くなげしてしまつた。今回の出火で被災しなかつた工場では、また木造の部分が残つたが、全て撤去して改築した。出火原因や延焼の原因となりそ

うな部分を徹底して排除した。新工場建設に併せて全工場の火災報知器を完備した。増築を重ねていく中で、本来は工場の外に設置されてはいるはずのガスの収納設備が建屋と建屋の間にあるようになつてきたが、工場内に置かない設計にした。出火原因は特定はできなかつたが、漏電による火災ならつとつとつと、以前は壁にむき出して設置していたブレーカーを電源ボックス内に集約した。

延焼の要因の排除としては、増設を繰り返したため、隣接した工場同士の間を免れる構造になつていなくなつた。これについては防

火壁 防火シャッターを設置した。火災報知器、通報装置のほか、事務所内にはどこから火、煙が出ているかを表示するパネルを設置した。電源設備からの電気がどこに行つていなかつたのを分かるようにした。当然のことですが火災に對して強くなつた部分も、どこか燃えないように、燃える部分を全くなげしてしまつた。今回の出火で被災しなかつた工場では、また木造の部分が残つたが、全て撤去して改築した。出火原因や延焼の原因となりそ

客さんには納期の遅れなどで迷惑を掛けました。受注が継続され減少することがなかつた。仕事がある、お客さんに必要とされていくことが自信につながつた。いろんな方がいら早く駆け付けてくれて、精神的にも助けられました。第1工場が被災した第2、第3はほぼ無傷だったのも幸いでした。電源さえ復旧すれば仕事ができるという状況。仕事ができる、生産ができるというのが励みにつながつた。これは信用問題につながるんです。お客さんから預かつていた修理部品を一つもなすことがなかつた。当時、いろんな方から怒め、励ましの言葉を掛けていただきました。特に室蘭民報の18

独自の技術や 製品アピール

札幌

ビジネス313社・団体が出展

【札幌】北海道最大級のビジネスイベント「第25回北海道技術・ビジネス交流会（ビジネスEXPO）」（同実行委員会主催）が10日から札幌市白石区のアクセスサッポロで始まり、過去最多の313企業・団体がブースを構え新技術や製品をアピールした。11日まで3月に発生した東日本大震災の影響で「省



313の企業・団体が独自技術をPRしたビジネスEXPO

エネ・新エネ「節電」のブースに前回の約2倍となる22社が出展。災害救助ロボットや河川用逆流防止水門などの災害対応ブースも設

けられた。「ものづくり・電気・機械」ゾーンに設けられた差籠テクノセンターのブースにはニッポン北海道制御システム、佐藤設備工業、フクタク、大和電機北海道、佐々木機工の5

企業が出展。「学術・試験研究機関」ゾーンの室蘭工業大学地域共同研究開発センターのブースでは橋のよつもの長寿命化など数々の研究成果がパネルと映像で紹介された。

（北川誠）

(1) 2011年(平成23年)11月21日(月曜日)

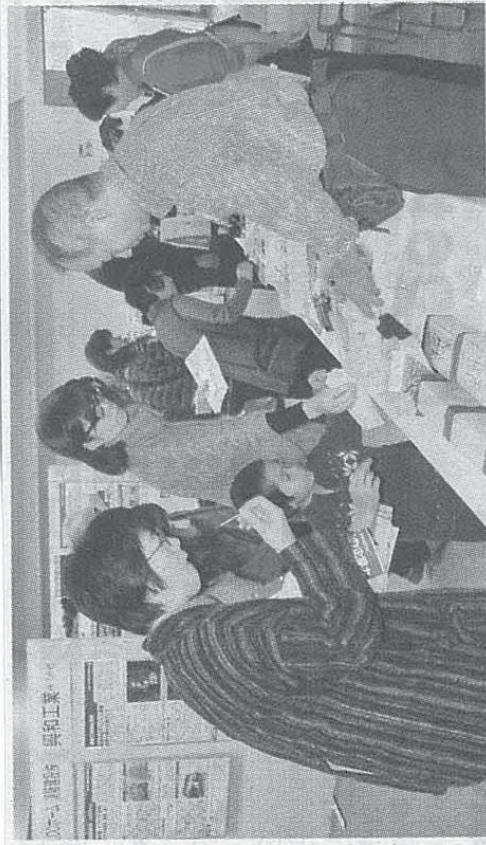
宮城の名産品も販売

室蘭で「西いぶりの企業力」

道中小企業家同友会 今回で4回目。
 西胆振支部(斎藤光太郎支部長)主催の「西いぶりの企業力2011」が20日、室蘭市民会館で開かれた。今年度は東日本大震災復興応援物産展として、宮城県中小企業家同友会の会員企業の名産品を販売。西胆振会員企業の商品販売コーナーとともに、来場者の人気を集めていた。

室蘭テクノセンター共催。会員となる地場中小企業の活動や事業内容をPRする催し。

宮城県中小企業家同友会コーナーには、キスケフーズの「牛タン」、御菓子老舗ひろせの「すんだコロもち」などが並び、来場者は復興への願いを込め次々と買い求めていた。今回初登場の会員企業などによる物販・試食コーナーでは、うずら卵を用いたプリンにカステラ、室蘭カシラメン、伊達市を中心とした新鮮な野菜などを販売。地場の味覚を求める人たごにぎ



宮城県中小企業家同友会、西胆振支部会員企業らによる物販・試食コーナーが人気を集めた「西いぶりの企業力2011」

わいをみせていた。恒例の企業パネル展示会では、会員30社の業務内容などを紹介。商品やサービス、技術力を発信する内容に、来場者は地場経済の「翼を担う中小企業の底力」を感じていた。収益の一部は、宮城県中小企業家同友会への義援金に活用するといつ。(松岡秀宣)

次世代担う人材育成を

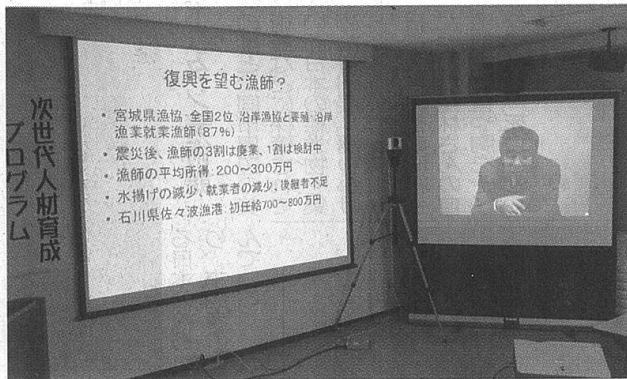
講義がスタートした次世代人材育成プログラム
室蘭経営革新塾



グローバル競争に打ち勝つ経営力を身に付けよう
と、西胆振産学官ネットワークが主催する「次世代
人材育成プログラム室蘭経営革新塾」の初講義が24
日夜、室蘭工業大学を会場に始まった。(佐藤重伸)

産学官 経営革新塾 が開講

室蘭・諏訪両市結び講義



遠隔双方向ライブ装置を使っでの授業

同ネットワークは室蘭、地域共同研究開
発センター、室蘭テク
ノセクターで構成。
室蘭のほか長野県諏
訪地域の経営者、社員
や職員、学生を対象に
「経営力強化」を学ん
でもらう。室蘭大、法
政大、信州大などの教
員が室蘭、諏訪両市を
結んだ遠隔双方向ライ
ブ装置を使い、来年3
月末まで12回の授業を
実施する。
第1回講義は室蘭で
30人が受講。講師の法
政大・岡本義行教授が
「PPPとビジネス環
境の変化」について説
明した。岡本教授はバ
ブル経済崩壊後の景気

低迷について「現在の
財政赤字を解消するに
は経済成長が何よりの
良薬だが、失われた20
年間は経済成長がなか
った」と、景気低迷か
ら抜け出せない日本経
済を分析した。
この後、漁業大国の
ノルウェーの現状につ
いて、水揚げ、養殖か
ら加工、技術革新、研
究など「他の産業と絡
めた漁業を進めること
で地域の雇用と所得を
めた。

これらを踏まえ岡本
教授は「グローバルな
競争力のある農林水産
業への転換が必要。そ
のためには、クラスタ
ーを形成してイノベー
ションを促進させ、製
造業やサービス業、大
学や研究機関との連携
が大切である」とまと
め、

次世代人材育成
プログラム

産学官

知的財産

教育社会

3部門の連携強化

室工大統括本部講演会

室蘭工業大学(佐藤 一彦学長)は産学官連携、知的財産、教育社会連携の3部門を束ねる社会連携統括本部を



室工大が設立した社会連携統括本部の講演会

発足させ、30日に同大事務局大会議室で発足講演会を開き、新組織を内外にアピールした。

これまでは各部門が教育、研究、社会貢献を実施していたが、研究分野の拡大や連携対象機関の広域化などに対応するため、3部門の連携を強化することにした。昨年度から準備を進め、10月上旬に発足した。

具体的には「社会のニーズに対応する研究」「研究活動による学生の教育」「研究成果と人材育成による社会貢献」を柱に研究と教育の高度化を進めるという。

講演会には教職員や企業などから80人が出席。佐藤学長が「3つの組織の連携を密にして今後の活動を進めていきたい」とあいさつ。

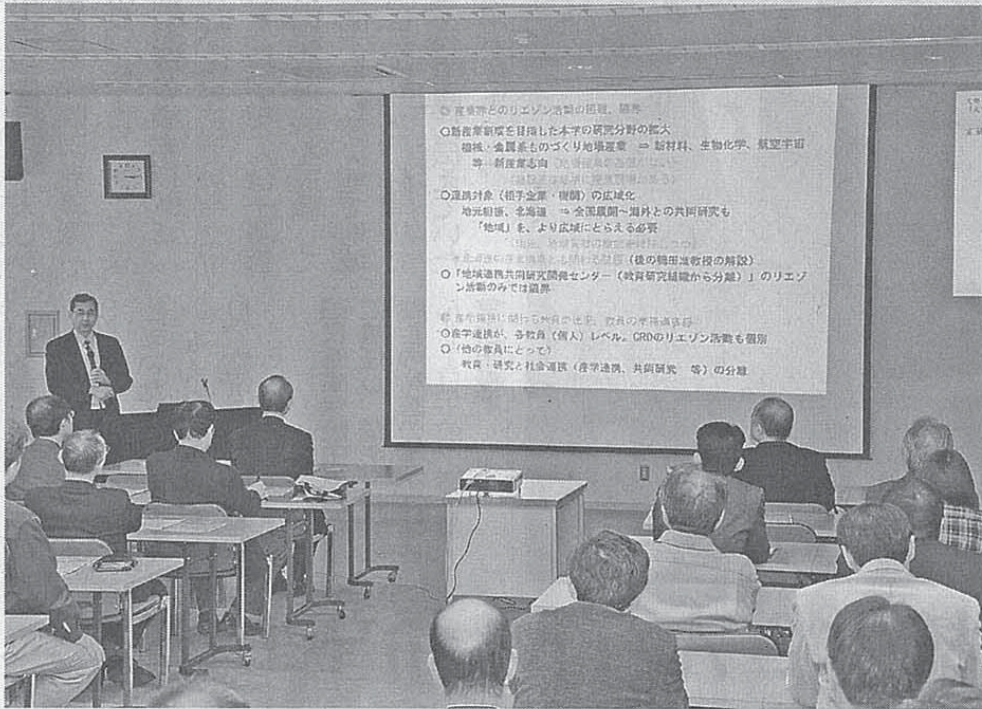
統括本部長・野口徹理事が「社会貢献に関与する教員、研究領域を拡大させ教育と研究の活性化に結びつけた」と経過を説明した。その後、文部科学省

科学技術学術政策局産業連携地域支援課・竹下勝専門職が「科学技術政策の動向と産学官連携施策の方向性」と題して講演。同大地域共同研究開発センター・嶋田秀一准教授が連携統括本部の役割として「本学独自のコーディネート機能の発揮や研究を通じた教育による優秀な人材の供給などが期待される」と語った。(佐藤 眞伸)

学外連携 よりスムーズに

室工大が「統括本部」

企業連携などの必要性が指摘された統括本部発足記念講演会



室蘭工大は、企業との共同開発や地域への社会貢献事業の円滑な実施を狙い、「社会連携統括本部」を発足させた。対外的な連携事業の統一的な企画立案を目指す組織。発足を記念し30日には、同大准教授らによる講演会が開かれた。(山田一輝)

発足祝い講演会

同大では、これまで知的財産本部、市民へ企業との共同開発は地域の公開講座は事務部門の地域連携推進課が、知的財産の管理などはそれぞれ担当。だが、3組織間の連携不足や外部と連携する教員の固定化、共同開発向きの研究分野の不足などの課題が出てきた。

このため、文科省の補助事業「大学等産学官連携自立化促進プログラム」を活用し、3組織を上部から調整できるよう統括本部を設置。従来の「連携担当」理事を本部長に充てた。

記念講演会では、同大地域共同開発センターの嶋田秀一准教授が、大学は企業へのさらなる技術支援が必要と語った。

医工連携 リハビリ支援

製鉄記念病院 + 室工大



「体操ロボ」など機器開発へ

製鉄記念室蘭病院と室蘭工大が、在宅での介護予防運動やリハビリテーションを手助けする医療機器の共同研究を進めている。高齢化が進みリハビリの需要が増す中、医療現場のニーズに即した機器を開発し、地域医療の充実を図る狙いだ。

(石丸厚子)

同病院によると家庭「の利用希望は年々を訪れてリハビリを行 増えており、待機者はう同病院の「訪問リハ 現在14人になる。理学療法士らの人数も不足

しており、「医療スタッフが訪問しない間などでも患者が継続的にリハビリを行える支援機器があれば効果的」(同病院)という。共同研究は昨年春から準備を進め、同11月に始めた。項目は二つで、映像に連動させながらリハビリ訓練をし、体の動きをセンサーで蓄積するテレビゲー

ムのような機器と、体操の手法として動きながら利用者の運動データを取得するロボットの研究。

体操ロボットはホビードラムを市販されている機体を活用し、プログラムを設定。同病院の介護老人保健施設「憩」のデイサービスで使用し、利用者アンケートや職員の声を基にロボット

来月8日に現状報告

室蘭工大は2月8日午後5時45分から、製鉄記念室蘭病院(知利別町1)で、西胆振の医療、介護関係者向けに「介護予防防機器開発の取り組みの現状」をテーマに医工連携研修会を開く。

同大と同病院が介護予防やリハビリテーション機器の共同研究を開始したことを受けて企画。理化学研究所のロボット感覚情報研究チーム・チームリーダーの向井利春さんと同大の花島直彦准教授(制御工学・ロボット工学)が講演する。

無料。事前申し込みが必要。問い合わせは同病院経営企画課 ☎0143・47・4404へ。

製鉄記念室蘭病院の介護老人保健施設で体操ロボットに合わせ体を動かす利用者＝2011年8月(同病院提供)

ットの動作や機能改善を継続している。現場の力になれば

テレビゲームのように「ゲーム感覚で楽しむ実験を始める計画。担当だけでなく、医学的な効果がある機器になる(感性工学)は「在宅

よう協力したい」と話している。

札幌で初、モーターショー

【札幌】道内で初となる自動車ショー「札幌モーターショー」が17日から3日間、札幌市豊平区の札幌ドームで開催される。国内外の自動車メーカーやバイクメーカーの最新モデル、寒冷地仕様の電気自動車など、約180台が勢ぞろいする。室蘭工業大学(佐藤二彦学長)もエコカーを出展する。

道内への部品工場などの進出が進み、北海道が自動車生産の拠点として成長していることを広くアピールするのが狙い。

ショーでは、道内の企業4社と道立総合研究機構が、市販車をベースに開発した「メイドイン北海道」の電気自動車をお披露目。車

17日から 室工大もエコカー出展

内での暖房使用や、外気温の低さからリチウムイオン電池の消費が早まることを考慮し、小型発電機を搭載。断熱ガラスを採用し、断熱シートを貼り付けるなどの対策も施した。

室工大はものづくり基盤センター「エコランププロジェクトチーム」が作成、エコ・マイレージ・チャレンジ2011の市販車クラスで優勝を飾った車両などを出品する。学生たちは「多くの人たちに見てほしいです」と張り切っている。

モーターショーは午前10時から午後6時(最終日は午後4時)まで。当日入場料は一般1200円、中・高校生700円で、小学生以下は無料。

室工大の教授ら共同研究

新型暖房機が優秀賞

ものづくり
日本大賞

【札幌】ものづくり日本大賞の北海道地域表彰式が28日、札幌市中央区のホテルで開催され、室蘭工業大学の加賀壽教授らの共同研究による新型パネル暖房機に優秀賞が贈られた。

受賞案件は「ヒートサイフオンの技術を利用した熱源内蔵FF式真空パネル暖房機『H

PH』の開発」。ヒートパイプの原理を応用して内部を減圧することで、ポンプを使わずパネル全体を瞬時に均一に暖められる世界初の暖房機構装置。大型ボイラーや温水循環用ポンプなどの機械設備室が不要。省エネ効率も高いという。賞状を受け取ったコ

トノ(函館市)の阿部俊夫代表は「今回の受賞をきっかけに、今後もパネルヒーターの世界標準となるよう頑張ります」と意気込みを語っていた。

「ものづくり日本大賞」は日本の産業や文化を支えてきたものづくりを継承・発展させる人材を表彰する。創

設は平成17年。4回目の今回は北海道から24の応募があり、7件が入賞した。

(北川誠)



優秀賞の賞状を受け取るコトノの阿部代表(右)

北海道新聞(夕刊)

橋や道路維持管理法は

室工大 寒地土木研とセミナー

室蘭工大と独立行政法人土木研究所寒地土木研究所(札幌)の連携・協力協定1周年を記念した両者主催の共同セミナーが28日、同大で開かれた。双方の研究者が、凍結による橋や道路の劣化防止法など、寒冷地施設の維持管理技術などについて講演した。

両者は共同研究や人材交流を狙い昨年3

月、連携・協力協定を締結。セミナーでは双方から計5人の研究者が講演、大学教員や官公庁の土木系職員ら約200人が出席した。

維持に税金を投入でき

るかが課題」と強調した。

演があった共同セミナー

まず同法人土木研究所の魚本健人理事長が土木構造物の長寿命化について基調講演。「国内総生産が減り、少子高齢化が進む中で、どれだけ社会基盤施設の維持に税金を投入できるかが課題」と強調した。

また、室蘭工大建築社会基盤系学科の岸徳光教授が、橋の補修・補強に関する同大の取り組みについて説明するなど、各研究者が最前線の研究内容を紹介した。

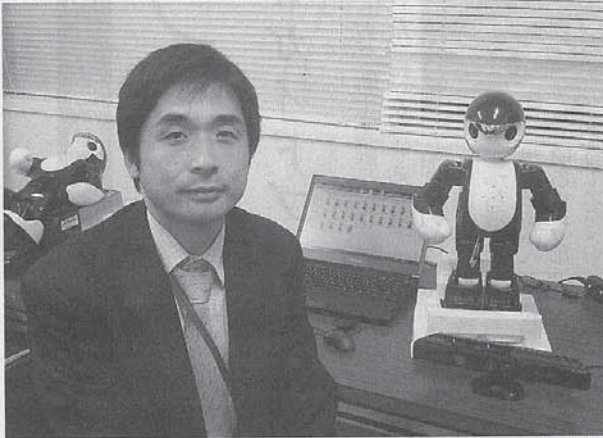
(山田一輝)



製鉄記念室蘭病院と室工大

リハビリ支援へ共同研究

体操を指導するロボットの研究を進める
花島准教授



体長30cmのロボットが介護予防体操を指導。製鉄記念室蘭病院と室蘭工業大学がリハビリ支援を目的に、ロボットやゲーム機を使った介護支援機器の開発を共同研究している。施設や自宅での利用を想定。国が在宅医療を推進していることもあり、注目を集めている。

(調子理人)

Wiiriモコンを使った介護予防支援機器の開発に取り組む魚住准教授



医療や介護の「予防」に焦点を当て、地元で「医療」と「工学」が連携するきっかけづくりを狙った。テーマは利用者のモチベーション維持や効果向上、介護側の負担軽減とした。テーマ設定の背景には高齢化による訪問リハビリ需要の増加がある。同院の訪問リハビリテーションセンターの利用も年々増加している。理学療法士が2週間に1回のペースで訪問しているが、対応の限界もあり、待機者も14人出ているという。両者は昨年、共同研究に着手した。研究は①ロボットによる体操指導②Wiiriモコンとパソコンを使った介護予防支援機器の二つ。いずれも「楽しんで結果、効果が出る」がミソ。室工大の花島直彦准教授、魚住超准教授がそれぞれ担当している。ロボットはプログラムで自由に動かせる市販品を活用。ビデオカメラも組み合わせ、モニタリングも可能だ。昨夏から介護老人保健施設「憩」（知利別町）で実験を続けている。予防になるのが理想。室蘭発の医療機器として実用化されればうれしいですね。地域貢献になれば」と話している。

ロボットが体操指導 ■ ゲーム機で楽しく

メラも組み合わせ、モニタリングも可能だ。昨夏から介護老人保健施設「憩」（知利別町）で実験を続けている。体操の時間に動きと声で体操を指示、利用者の声を受け改善を続ける。一方の介護予防支援機は、Wiiriモコンを体に取り付け、パソコン上で「膝の上げ幅が効果的か」などとチェックできる。これにゲーム感覚を組み込み、利用者がより楽しむ、のめり込めるような手法の検討を重ねている。

製鉄病院経営企画課の遠藤亨さんは「楽しみながらやっていることが、結果として介護の側が助けられるか。可能性は大きい」と話している。



研究進む耐震補強

5教員が実験結果発表

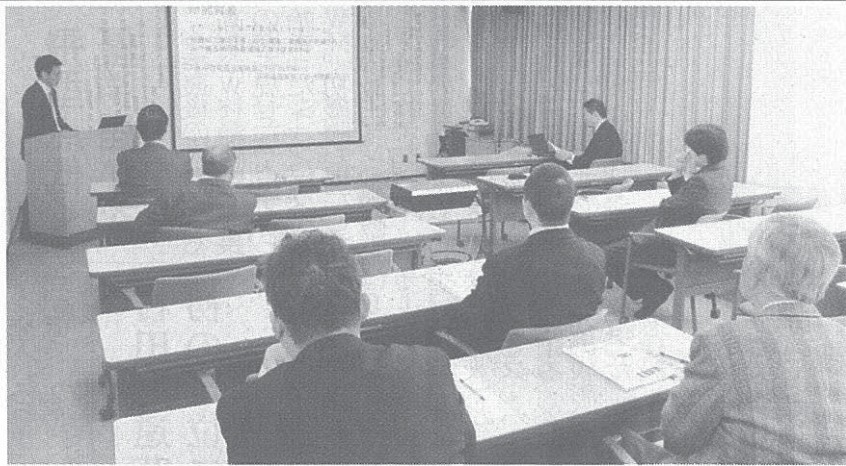
室工大セミナー

室蘭工業大学(佐藤一彦学長)・地域共同研究開発センター(加賀壽センター長)主催のCRDセミナーが9日、同センターで開かれ、耐震補強などに関する河川橋脚や港湾などの耐震補強、積雪寒冷地の道路構造物である橋梁などの損傷評価などをテーマに5人の教員が発表した。

このうち、岸徳光教授は水中構造物の補強

工事について「水中接着材を強化する工法を提案、実用化に向けた検討を進めている」と紹介。小室雅人講師は橋梁での震動実験の結果を報告した。

(佐藤重伸)



室工大地域共同研究開発センター主催のセミナー

北海道新聞



企業間の連携促進を

室蘭ものづくりセミナー

胆振ものづくり産業連携推進セミナーが14日、室蘭市内のホテルで開かれ、関係者が胆振管内の企業間や産学官連携のあり方を探った。

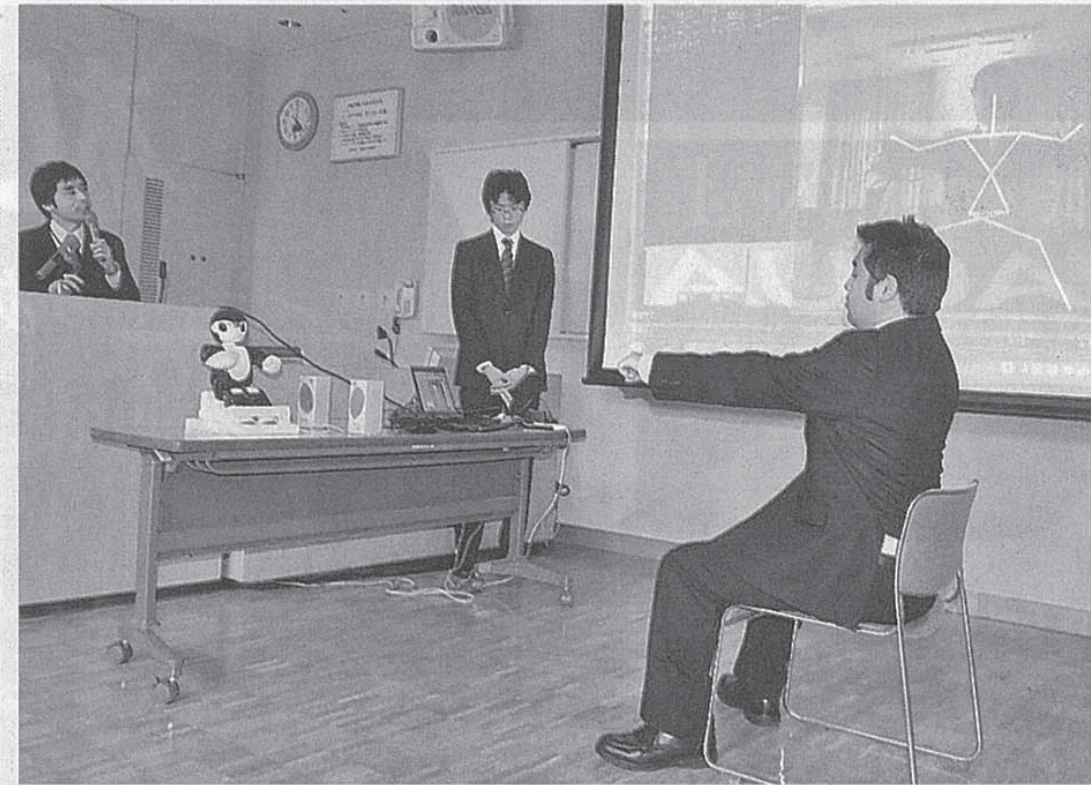
胆振総合振興局などでつくる胆振ものづくり産業振興連携会議の主催。胆振管内の経営者ら約30人が参加した。

室蘭工大・地域共同産学官連携の取り組み事例などが報告されたセミナー

研究開発センターの加賀寿教授が講演し、金属研磨業者45社が集まって技能伝承や共同受注を実現している新潟県の例などを紹介。「まずは地元の企業が互いを知ること。何を必要とし、何ができるかを知って。振興局なども仕掛けを考えてほしい」と述べた。

また、いすゞエンジン製造北海道(苫小牧)の大沢正伸社長は、道内で調達している部品が全体の0・2%にとどまることを紹介し「道内調達の拡大を考えており、参入を検討してほしい」と呼び掛けた。

(吉田隆久)



ロボ活用リハビリ新時代

製鉄記念室蘭病院は、室蘭工大と共同研究している在宅での介護予防運動やリハビリ向けの医療機器についての中間報告会を15日、同病院で開き、同大の担当教授らが体操ロボットと家庭用ゲーム機を活用したリハビリ機器について実演などを行った。

高齢化を背景にリハビリの需要が高まっていることから昨年11月に共同研究を開始。体操ロボは高さ約40センチ、体操の手下として動きながら、付属のセ

体操ロボの動きやデータ蓄積を紹介する花島准教授(左)

製鉄記念病院と室工大が中間報告

ンサーで利用者の運動データも蓄積できる。担当する同大の花島直彦准教授は「腕の上下運動などで肘や肩の関節角度が計算できる」とし、「今後は在宅利用者への貸し出しや運動機能を充実させたい」と説明した。

リハビリ機器は家庭用ゲーム機の無線リモコンをバンドで体に固定し、詳細な運動データをテレビ画面などで表示する。魚住超准教授は「リハビリ初期の数センチ程度の動きも読み取る。ゲームメーカーに売り込んでいきたい」と力を込めた。

会場からは「ゲーム性があれば楽しくリハビリできるのでは」などの声が上がっていた。(石丸厚子)



研究目標 6件上回る

室工大の地域共同センター 23年度活動報告

室蘭工業大学(佐藤 彦学長)地域共同研究開発センター(加賀 壽センター長)の平成23年度事業推進検討会が22日、大学事務局会議室で開かれ、同センターの活動状況が報告

された。

会議では最初に役員を選出。会長には北海道科学技術総合振興センター・山中芳朗新プロジェクト室長、副会長に同大・風間俊治教授を互選した。

この後、大学事務局からセンターの活動状況が紹介された。同センターが関わった共同研究は22件(4316万円)で目標を6件上回った。企業訪問による企業ニーズ調査は193件で目標の2倍強の実績を挙げた。

このほか、セミナーや技術経営実践講座など実施した事業が報告された。この後、出席した会員11人からは産学官連携などについて意見交換した。

(佐藤重伸)

地域共同研究開発センターの平成23年度事業推進検討会

研究は22件(4316万円)で目標を6件上回った。企業訪問による企業ニーズ調査は193件で目標の2倍強の実績を挙げた。

このほか、セミナーや技術経営実践講座など実施した事業が報告された。この後、出席した会員11人からは産学官連携などについて意見交換した。

(佐藤重伸)

地域共同研究開発センターの平成23年度事業推進検討会

研究は22件(4316万円)で目標を6件上回った。企業訪問による企業ニーズ調査は193件で目標の2倍強の実績を挙げた。

このほか、セミナーや技術経営実践講座など実施した事業が報告された。この後、出席した会員11人からは産学官連携などについて意見交換した。

(佐藤重伸)

地域共同研究開発センターの平成23年度事業推進検討会

研究は22件(4316万円)で目標を6件上回った。企業訪問による企業ニーズ調査は193件で目標の2倍強の実績を挙げた。

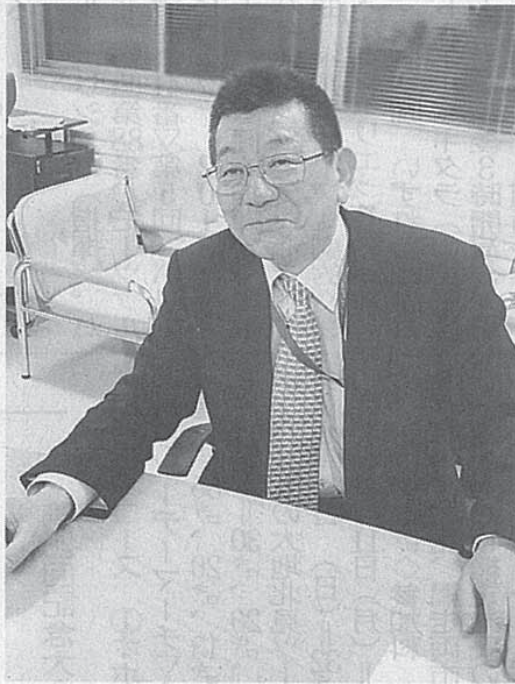
このほか、セミナーや技術経営実践講座など実施した事業が報告された。この後、出席した会員11人からは産学官連携などについて意見交換した。

(佐藤重伸)

北海道新聞

「大学が地域のために何ができるか。そして地元の人同士のコミュニケーションの仲立ちをどうするかを考えた6年だった」。今月末で定年退職する室蘭工大・地域共同研究開発センター長の加賀寿教授(65)は話す。

同センターは地場企業と室工大の研究者を引き合わせ、共同研究などに結びつけることを目的に1988年に発足。自身は道立工業技術センター(函館)を経て2006年に着任した。地域のニーズに応じた新素材の開発など、受託・共同研究



企業と研究者を橋渡し

を重ねてきた。室蘭市内には国内有数の大手企業の工場が立ち並ぶ。「その半面、中小企業同士の横のつながりは薄いと感じた」。企業経営者らに呼び掛け、自社を紹介や互いの工場の見学などを行う交流組織「創造」を発足させた。

胸襟を開いて付き合い始めた。初め合後は極力、飲み会を開く。毎回20社以上が参加し「室蘭にも、新しいことをやりたいという

意欲ある経営者もたくさんいると分かった」と振り返る。

退職後は自宅のある函館に戻る。「室蘭と函館との地域間交流をした。人のつながりからビジネスが生まれるはずだ」。のんびり休むのはまだ先になりそうだ。

|| 室 蘭 ||

室蘭・胆振

MURoran・IBURI



テレビ会議システムを使って法大教員の講義を聴く参加者
＝3月22日、室工大

室蘭経営革新塾の講義	
内容	講師(冒書は講義当時)
中小企業経営の環境変化と地域クラスター化戦略	岡本義行・法大教授
課題抽出と共有のためのワークショップ	加賀寿・室工大教授ら
最近の中小企業事情	山田伸順・大田区産業振興協会専務理事
中小企業のブランド戦略	小川孔輔・法大教授
中小企業の経営経緯	坂本光司・法大教授
中小企業の事例研究	松本政則・法大准教授
地域企業におけるキャリア形成と人材育成①	諏訪康雄・法大教授
地域企業におけるキャリア形成と人材育成②	奥山睦・静岡大客員教授
中小企業の財務管理	西浦道明・公認会計士
中小企業マナーゲティング	小林守・法大教授
製造業の権限リポート発表	木村登志男・法大教授

経営学実践に手応え

「室蘭革新塾」12回の講義終える

室蘭工大でつくる四国経営学ネットワークが、中小ものづくり企業経営者を対象に大学院レベルの経営学講義を行う「室蘭経営革新塾」が3月、2年目のプログラムを終えた。企業のグローバル化が進む中、中小企業の「経営力強化」を目的に、室工大と法政大を主として協議システムを結び、法大の教員が中心となって計12回の講義を実施。四国圏から約30人が参加した。塾の取り組みと受講した経営者の感想を紹介する。

中小企業の強化策学ぶ

「製品を多く売るだけでなく、納品後のアフターサービスも含めた販売戦略が必要。ホンダやヤマハの二輪車は部品が豊富ですぐに修理ができることを売りにして、新興国で成功している」

3月22日夜、市内赤十字の室工大キャンパスの1号室。教室前方のプロジェクトルームに、木村登志男・法大客員教授が「製造業の経営力強化」の題で講義を行った。

製造業大手のゼンコーエレクトロニクスで経営企画や品質管理などを担当してきた木村さんは、日本製品は品質が過剰気味だとし「性能だけでなく、わくわく感などの主観的価値も追いつけただと主張。受講者は熱心にメモをとりながら聞き入った。

講義は全国の大卒でつくられた経営学部に法大が所属していたことが縁で、2010年度以降の講義を受けて初開催。11年度は補助金で経営学部に法大が所属していたことが縁で、受講料を集め、11人の専門家が財務管理や全国の中小企業の特徴的な取り組みなどを解説した。室蘭市に「室蘭革新塾」を立ち上げた。室蘭市に「室蘭革新塾」を立ち上げた。室蘭市に「室蘭革新塾」を立ち上げた。

受講者の声

2010年度に続いて2度目の参加になりました。前回は余りにも学術的すぎて、中小企業の経営者には範囲が広すぎる印象もありました。今回は身近な内容が増えた感じがします。

自分自身も食品会社を営んでいるので、小川孔輔・法大教授のブランド化戦略の発表が興味深かった。成功事例だけでなく、失敗した例を取り寄けたんです。

7年前、静岡県の繊維業者約20社が集まり、国から補助金を受けて「エレクトロイ」(織物の一種)の商品開発販路開拓を目指しました。ただ、

理念の大切さを心に響く

最も心に響いたのは「理念のある経営をしよう」と呼び掛けた坂本光司・法政大教授の発表。そこで紹介された長野県のタナシイ社は、足が不自由なお客の車いすが車間に入りきらないので、車いすを半分解し、降ろす時に組み立て直すのを繰り返す。同業者から敬愛されるほどです。

興味深かった失敗事例

取り組みは失敗してしまいます。講義で参加者同士で原因を議論し、参加者さまを取りまらさる方々にも広げていく考えです。

塾には多業種の方が集まり、情報交換の場にもなりました。本年度も参加したいと考えています。

野副 弘幸専務(35)

望月 一延専務(47)

野副 弘幸専務(35)

望月 一延専務(47)

企業の特徴的な取り組みなどを解説した。室蘭市に「室蘭革新塾」を立ち上げた。室蘭市に「室蘭革新塾」を立ち上げた。

受講者の声

2010年度に続いて2度目の参加になりました。前回は余りにも学術的すぎて、中小企業の経営者には範囲が広すぎる印象もありました。今回は身近な内容が増えた感じがします。

自分自身も食品会社を営んでいるので、小川孔輔・法大教授のブランド化戦略の発表が興味深かった。成功事例だけでなく、失敗した例を取り寄けたんです。

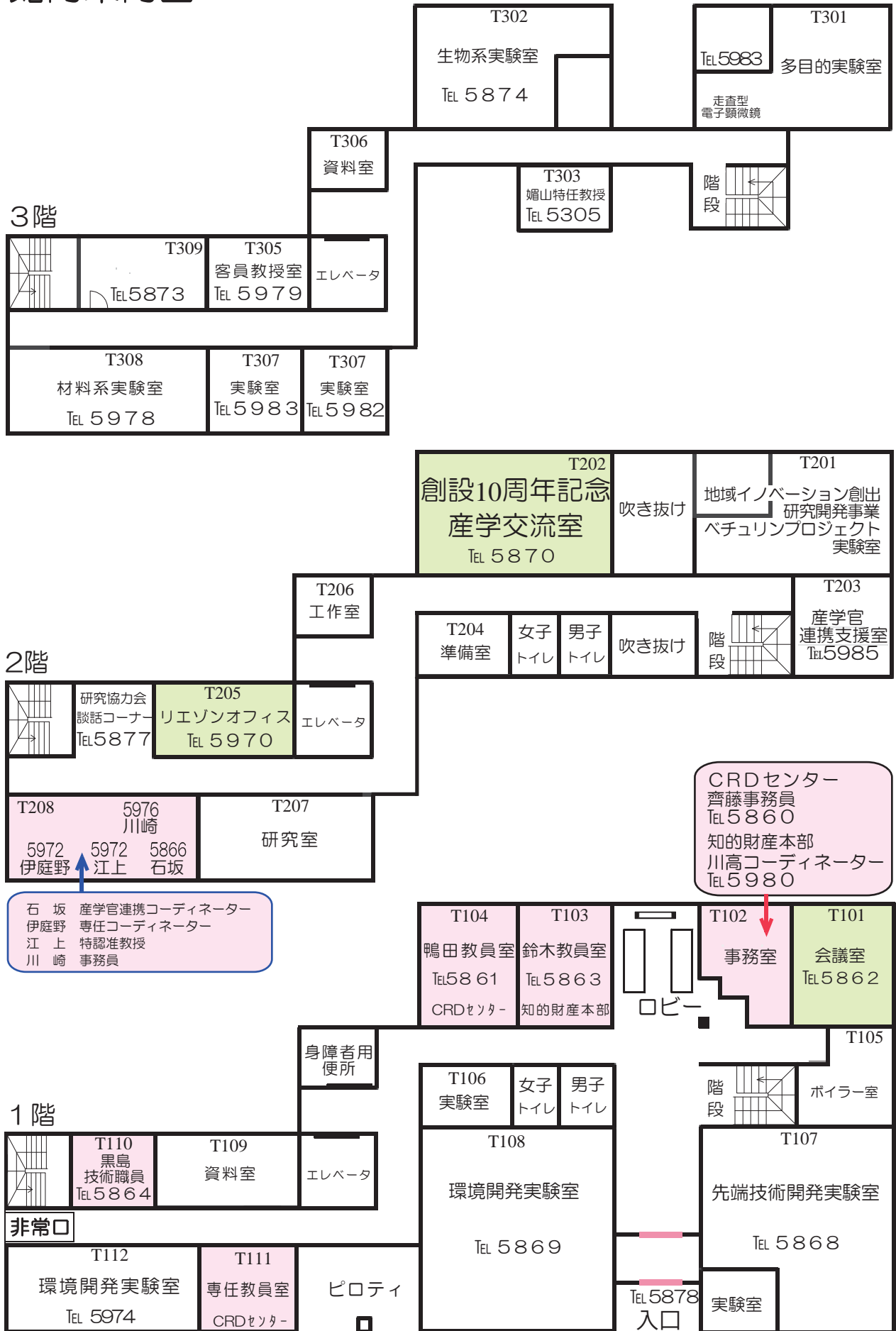
7年前、静岡県の繊維業者約20社が集まり、国から補助金を受けて「エレクトロイ」(織物の一種)の商品開発販路開拓を目指しました。ただ、



今後、人口減で地元での消費は頭打ちです。インターネットによる通信販売に力を入れる必要がある、と学びました。近々ホームページをリニューアルし、商圏を札幌や本州にも広げていく考えです。

塾には多業種の方が集まり、情報交換の場にもなりました。本年度も参加したいと考えています。

館内案内図



(2012.4.1現在)



室蘭工業大学
地域共同研究開発センター
〒050-8585 室蘭市水元町27番1号
URL <http://www.muroran-it.ac.jp/crd/>
E-mail: crd@mmm.muroran-it.ac.jp
TEL. (0143) 46-5860
FAX. (0143) 46-5879